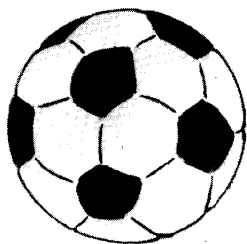


SEIKYO COMICS 13

未来ゲンジくん

第1巻



みなもと 太郎

未来ケンジくん



目 次

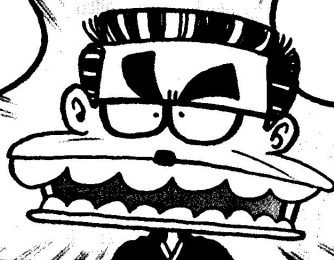
徳 勝 童 子.....	5
雪山の寒苦鳥.....	15
雪 山 童 子.....	26
舍利弗のあやまち.....	59
石 虎 将 軍.....	72
蘭室の友、麻畝の性.....	81
蒼 蠅 と 碧 蘿.....	94
輪陀王と白馬.....	101
猿 の 肝 と 亀.....	126
漁夫の利と池上兄弟.....	150
井戸の月と猿たち.....	193

とく しょう どう じ
徳 勝 童 子



未来家
全員

ごあい
さつ
ッ



みなさん
あけまして
おめでとう

兄・ケン太郎

母・ユリ子

ござい
ます

それでは
新年
の勤行を
はじめましょう

ケンジ

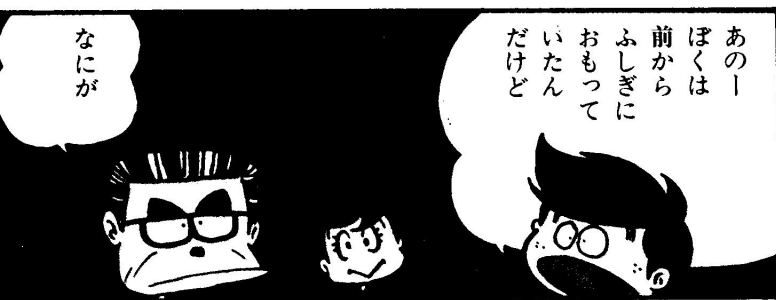
妹・スウ子

白ユリの
ユリです

父・健造

ホウスウ
スウの
お





御供養

.....!!

そう

三千年前の

インドの話に

こんなのが

ある

ある日

あるひ

王舎城という

都で

徳勝童子、

無勝童子と

いう

二人の子供が

砂あそびを

して

いた



そこへ
釈迦仏が
弟子たちを
つれて
入ってきたので

町中の人びとは
喜んで迎え
食べ物や着る物を
供養した



徳勝童子たちも
それを見て
なにか釈尊に
供養したいと思った

しかしもちろん
子供だから
なにも持って
いない――



そこで
徳勝童子は
今こねたばかりの
砂のモチを
ささげ

釈尊の
鉢はちに
盛ったのである

あの子は
私の滅後
百年のちに
世界の四分の一を
手に入れる
大王となって
生まれてくる
であろう

釈尊は
弟子たちに
告げた

えーっ

釈尊は
びっくりして
こまったでしょ

こまら
ないっ

百年後

釈尊の予言は

的中し

徳勝童子は

阿育大王^{アユダ}となつて

出現し

史上はじめて

全インドを

統一した



のちに

仏法を信じ

てからは

いつさいの

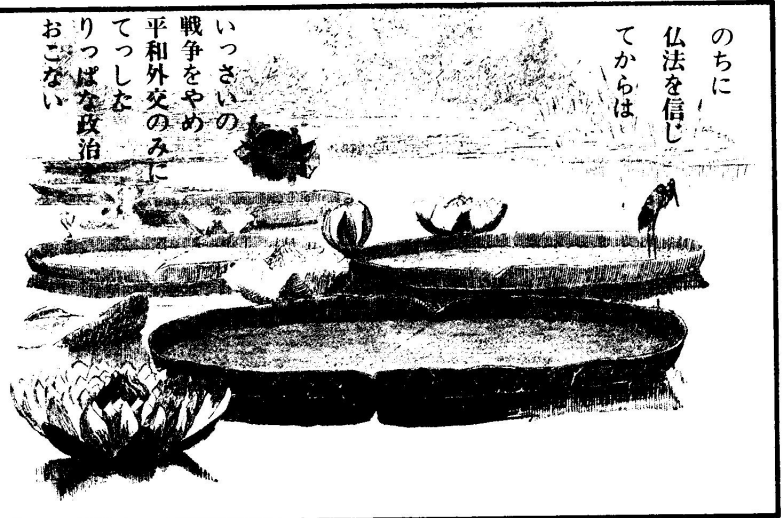
戦争をやめ

平和外交のみを

てつしな

りっぱな政治

をおこない



八万四千の

塔をたて

仏を

供養し――

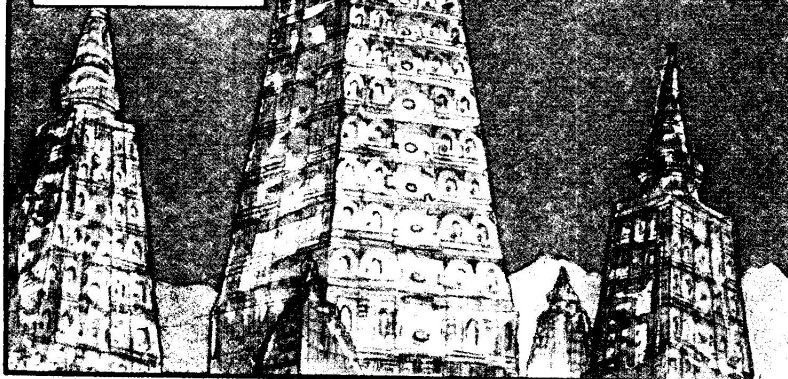
仏法の慈悲を

根底にした

平和と繁栄

の社会を

築いた



す、す、
砂のモチ

だけで

そんな功德が

あったの

っ

品物の

よしあし

ではないのっ

本当に

心から

尊敬の念を

こめて

供養したから

こそ

大果報を

えたのだっ



釈尊に
供養してさえ
これほどの功德が
あったのです

まして

私たちは

大御本尊様に

日々

御供養をしているの

ですから

その功德は

阿育大王などと

くらべものに

ならないほど

大きいのだ!!

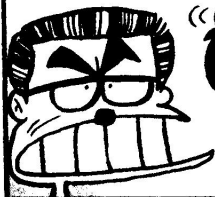
うはーっ



ほ、ほ、
ほくもさつそく
なにか御供養
を……

そういう
欲ばりな
御供養は
だめっ

きょろ
きょろ



御本尊様に対する

日々感謝の念で

勤行・唱題し

広布を推進する

ところに永遠にくずれ

ない福運が

築かれるのです

なほ

ほどーっ



あつ 話を
している間に
すっきり
おそく
なって
しまった

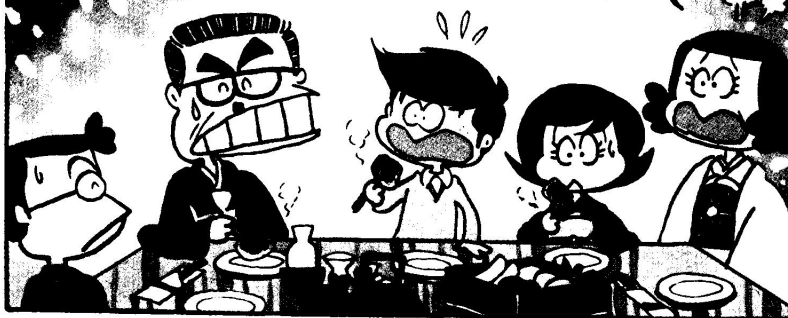
がんばって
勤行を
やりま
しょう
!!

勤行がおわって……

とうとう
お父さん
おモチを
こがしちやつてっ

わーっ
まっ黒の
炭すみのモチ!!

いいのだ
これでも
おいしいのだ
!!



せつ せん かん く ちょう
雪山の寒苦鳥



げは
げは
つ

必勝

勤行は絶対
欠かさない

成績
アップ

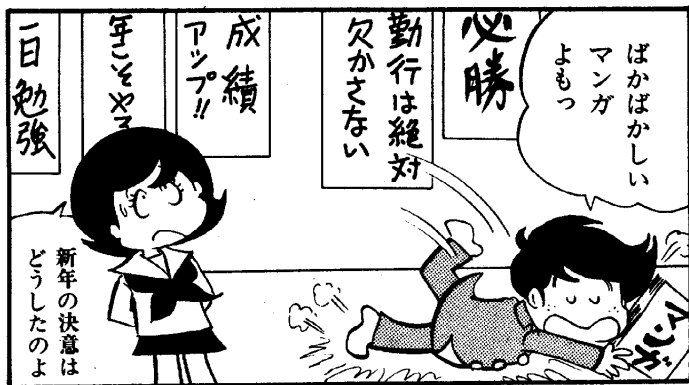
今年こそやるぞ

一日勉強
5時間

ゲ
ゲ
ゲ
ラ
ラ
ラ

き
き
き
や
や
や
つ
つ
つ





わからず
非難
するなっ

パパもママも
ケンジは
カンクチョウだつて
いつてるもん

カンクチョウって
いったい
なんなの——っ

寒い寒いと
いって
なく鳥だっ

お兄ちゃん
そんなに
寒がりなの…

いや
そうじゃ
なくて……

カンクチョウとは
つまり
雪山の
寒苦鳥って
いってね…

雪山って
どこにある山？

さあ……
それは……

あ、
ケン太郎
兄ちゃん
おかえり

なんだ
寒苦鳥の
はなしか

寒苦鳥は
インドの
説話だから

雪山は
ヒマラヤ
あたりと
されている

ま、地名は
重要な
ことじゃないけど
ね

さすが
ケン太郎
兄ちゃんね



そこに
寒苦鳥という
鳥がいて

毎晩
寒くてたまらず
夜とおし
鳴き悲しんでいた



あなたっ
あたし
寒くて寒くて
死にそうよ

昼の
あたたかいうちに
巣をつくつときや
よかったなア

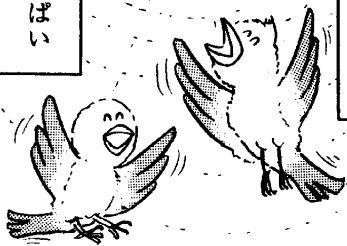
ううっ
寒いっ

もうすぐ
夜があける…
夜があけたら
いっしょうけんめい
巣をつくらうっ



ところが夜が明けて
あたたかな日の光を
あびると
巣をつくる気が
おこらなく
なつて

その日いっぱい
あそび
ほうけて
しまい…



そしてまた
夜がくると

ううーっ
夜が
あけたら
今度こそ
巣を
つくろっ
つ

と鳴くので
ありました

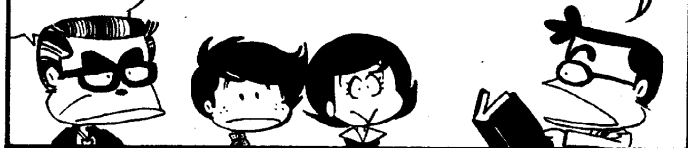




雪山の寒苦鳥は
寒苦にせめられて
夜明なば極つくらんと
鳴くといへども
日出でぬれば
朝日のあたたかなるに
眠り忘れて
又極をつくらずして
一生虚く
なくことをう

それが
さつき
ケン太郎が
いった
ところだね

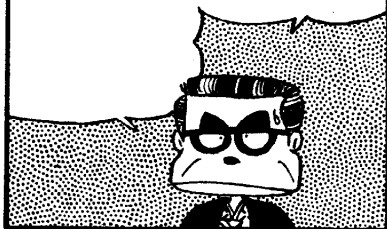
そのあとが
大事だ



一切衆生も亦復是くの如し
地獄に墮ちて炎にむせぶ時は
願くは今度人間に生れて
諸事を閑ひて三宝を供養し
後世菩提をたすからんと願へども

私達人間は
みなこの
寒苦鳥と同じ
目先のことに
負けやすい
傾向性を
もっている

信心修行にはげます
短い一生を
むなしくすごして
しまったならば……



私たちは
死の床についた時
どれほど
悔いをのこす
ことであろう

また信心にそむき
成仏できずに死んだ
自分の生命は
地獄界の苦しみの中で
どのように
思うであろう

うう~~~~
こんど
人間に生まれた
時は
必死に
がんばるぞーっ



地獄

諸事をさしおいて
三宝を供養する
とは

世の中の
ゆうわくや
つまらないことに
心をうばわれたり
しないで

ぶつ ほう ぞう
仏・法・僧の
三宝を
供養し
仏道修行に
はげもうと
誓うことだ



永遠の幸福を
つかもうと
決心するわけだ

ごき
後世菩提を
たすからんと
ねがう……



日蓮正宗の「三宝」
仏宝 御本仏・
日蓮大聖人。
法宝 三大秘法の
大御本尊。
僧宝 第二祖日興上人。

うう~~~~

たまたま人間に来る時は
名聞名利の風はげしく
仏道修行の灯は消えやすし

ところが
やつとの思いで
人間として
生まれてくると

社会的地位や
財産や
評判ばかりを
追求する
人生に
おちいつて……



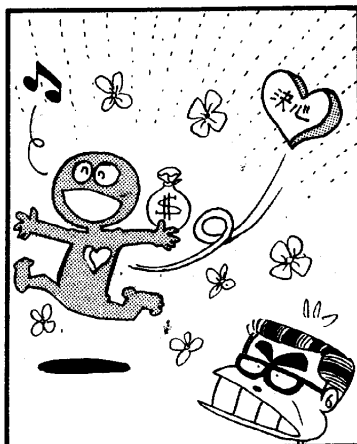
【名聞名利】

名聞＝世間の評判

ほまれ。名譽

名利＝名声と利得

(利益を得ること)



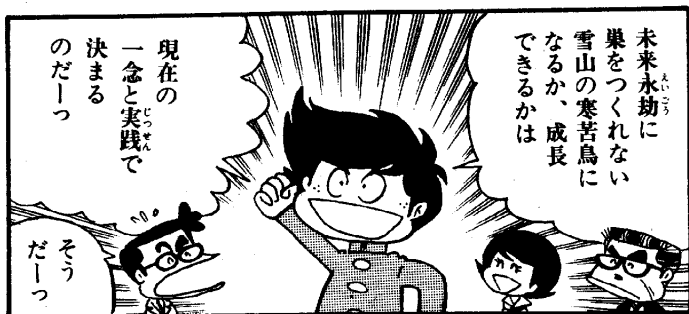
たちまち
仏道修行
の決心は
どこかに
ふきとん
でしまう
……

勤行は
めんどろ
くさい



テレビや
マンガには
よろこんで
夢中に
なるが





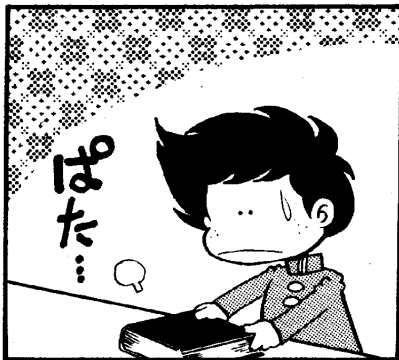
そして…

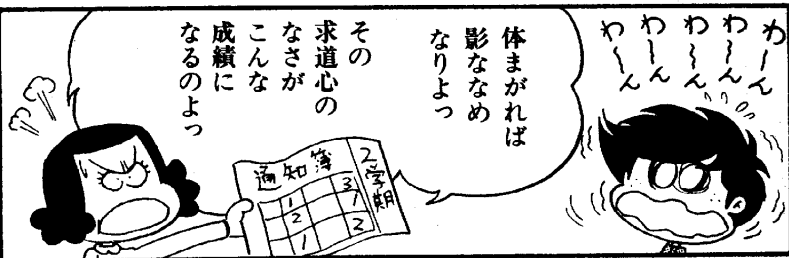


せつ せん どう じ
雪 山 童 子





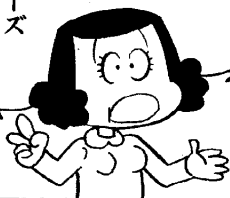




雪山の
寒苦鳥の
はなしなら
まえに
きいたけど……

鳥じゃ
なくて
人間の
話なの

ま
雪山シリーズ
「その2」って
ところね



……昔
雪山と
いうところに
「雪山童子」という名の
人がいました

雪山童子は
真実の法を
求めていたの
です……



ああ〜
どこかに
私の探し求めて
いる
すばらしい法を
知っている人は
いないものか

もし
おられるなら
私は
どんなことをしても
その人に
おしえを
こいたいものだ……

……と
日夜願っていた
ある日
どこから
ともなく

はて
?

……
……
……
……
……

かすかな
声が
きこえて
きた……

だだだだだ

だれかが
なにかを
いつて
いる!!

もしやそれは
私がこれまで
知りたかった
法では
なからうか!

諸行無常
ぜしやうむつぽう
是生滅法
.....

諸行無常
ぜしやうむつぽう
是生滅法
.....

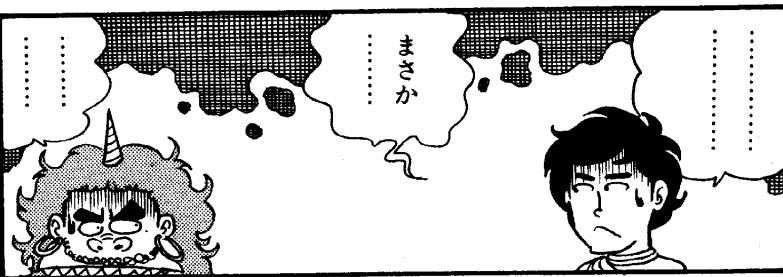
やはり
そうだ
!!

そこにいたのは
人ではなく
恐ろしい顔をした
鬼が.....

恐ろしい
でシヨ

諸行無常
ぜしやうむつぽう
是生滅法
.....

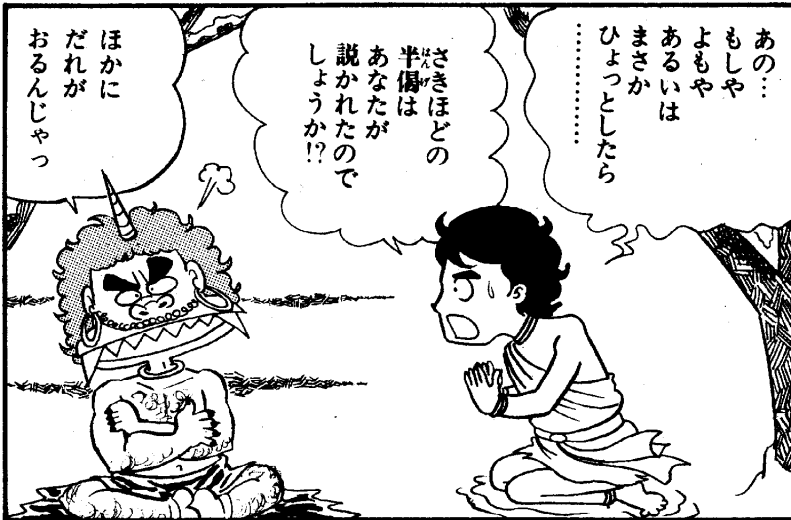
童子の
求めていた
法の一部を
つぶやいて
いた



あの…
もしや
よもや
あるいは
まさか
ひよっとしたら
……

さきほどの
半偈は
あなたが
説かれたので
しょうか!?

ほかに
だれが
おるんじやっ

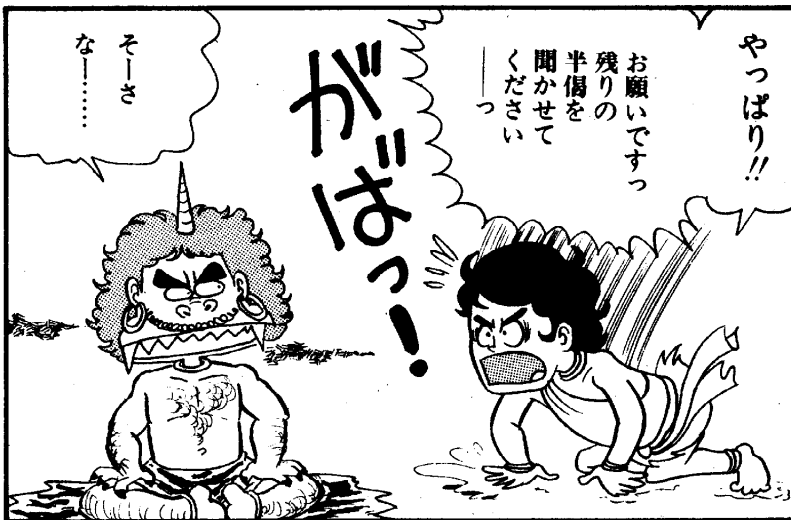


やっぱり!!

お願いですっ
残りの
半偈を
聞かせて
ください
っ

がはっ!

そーさ
な……



はー
相手が
鬼でも
かまわずに
雪山童子は
法を教わろうと
したんだね…

そう
です

大事なものは
その人の説く
内容であって
その人の
すがた、かたちでは
ないからよ

だから
私たちが
人にものを
教わるとき

相手の
みなりなどで
判断したり
しないように
しなくちゃね

なるほど
ねえ〜

僕はまた
鬼が出てきたから
豆でも
まくのかと
思った

そーいう
話は
このさい
関係
ないの

そして
……

私は今
あなたの説かれた
「諸行無常・是生滅法」の
八字を聞いて
ひじょうに
喜んでおります

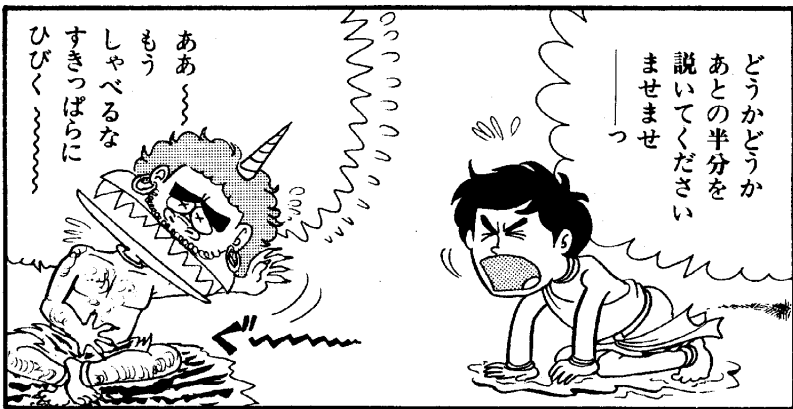
しかし
そのあとを
聞かなければ
花が咲いて
いるのに
実がならぬ
ような
もので

残念で残念で
なりませんっ



どうかどうか
あとの半分を
説いてください
ませませ
っ

ああ
もう
しゃべるな
すきっぱらに
ひびく



鬼さんは
おなが
すいて
いるの
ですか
……

そうなの
じゃ

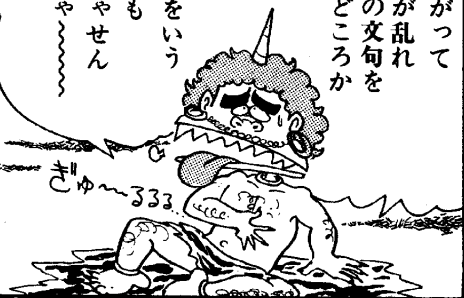
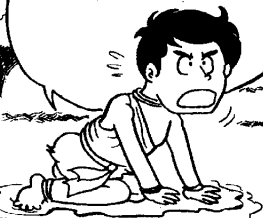
もう
数日の間
何も食つとらん
のじゃ



したがって
思念^{しねん}が乱れ
あとの文句を
説くどころか

ものをいう
元気も
ありやせん
のじゃ~~~~

では
食べものを
もって
くれば
説いて
くださるの
ですねっ



説こう
!

では
さっそく
食べものを
とって
きます

手に入る
わけが
ない……



鬼さんは
いったい
なにを
食べるの
ですか……

聞かない
方が
いいぞ
……



わしは
人間の
あたたかな
肉を食い
あたたかな
血を
のむのじゃ
！

えっ



わしはこれでも
空を飛ぶ術くらいは
こころえておる

しかし
天が人を守るので
なかなか
生きた人間は
手に入らないのだ
.....

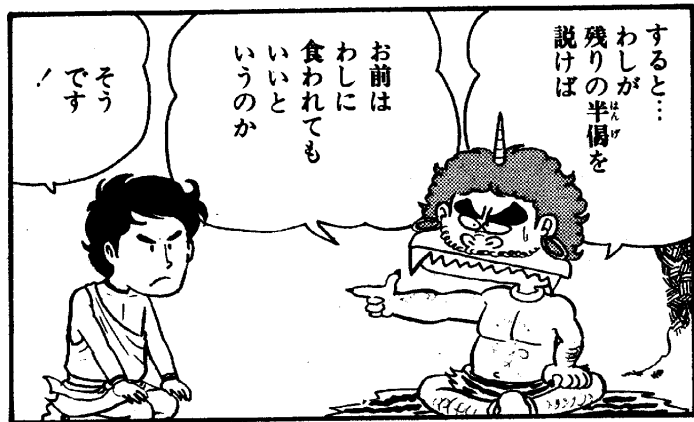
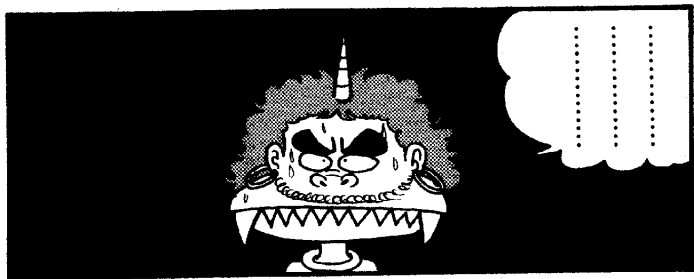
それでは
私の体を
あなたに
さしあげ
ましょう！

なにーっ



そうですか
わかり
ました.....



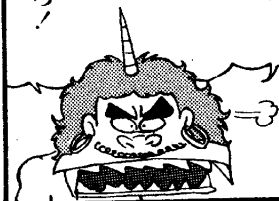


すると
私が
聞き逃げ
すると
おっしやる
のか!!



そうで
ないという
保証が
どこに
あるかつ

あるなら
いってしろ!



あなた

石と
黄金を
とりかえて
やると
いわれて

それを
いやがる人が
いると
思います
か?

ん?



いずれにせよ
私も
いつかは
死ぬ身です

なにも
さくらぬまま
この山で
死ねば
トラやオオカミの
エサに
なるだけの
話で
なにか一つ
得ることは
できないのです



この身を
あなたの説かれる
残りの半偈に
かえるならば

それは
土の器うしろをすてて
金の器きんを得る
ような
ものなのです

ふむ

しかし
まだ
信じ
られぬ

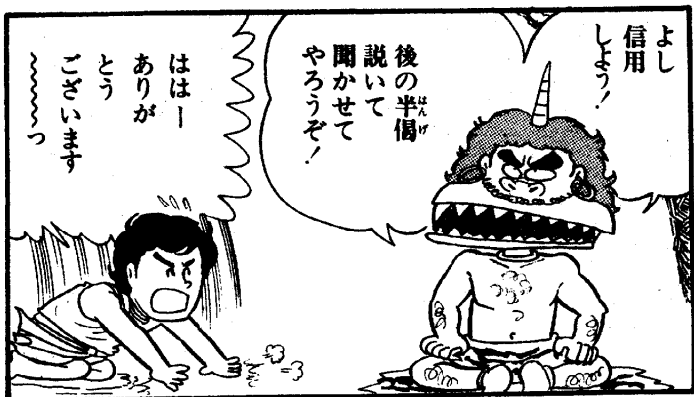
わりに
うたがい
深い
鬼だ
なア...

私のいうことが
いつわりでないことは

大梵天王
帝釈天王
四大天王

そして十方の
諸仏、菩薩が
みな証人と
なつてくださる
はずです！

ふむ
そうまで
いうのか.....





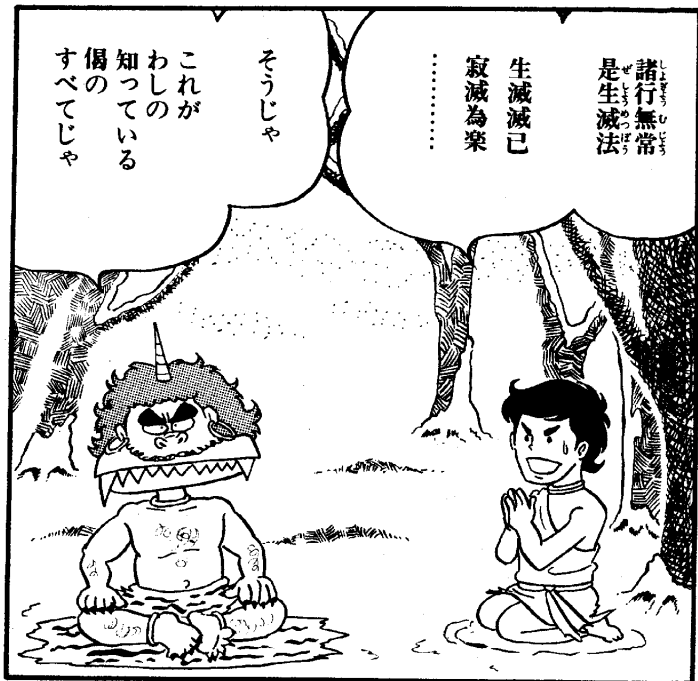
諸行無常
是生滅法

生滅滅已
寂滅為樂

.....

そうじゃ

これが
わしの
知っている
偈の
すべてじゃ

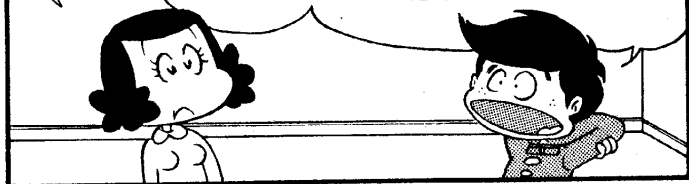


うーん
その
偶は

雪山童子が
命とひきかえに
説いてもらった
くらいだから

ものすごく
尊い
教え
なんだね

それが



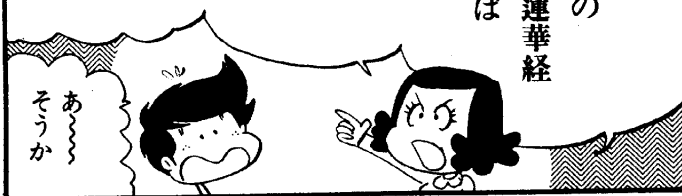
仏教のなかでは
ごく基本的な教え
なの



三大秘法の
南無妙法蓮華經
からみれば

ごく
低い教え
です

私たちが
この話で
学ぶのは
雪山童子の
尊い求道の
姿よ！



あ
そうか

さて
それでも



雪山童子は
この
偈を
聞いて
心の底から
喜び
ました



諸行無常

是生滅法

生滅滅已

寂滅為樂

.....

諸行無常

是生滅法

生滅滅已

寂滅為樂

.....

諸行無常

なんで

そんなに

くりかえし

くりかえし

暗唱するのだ









ねがわくは
法を求めて
この地へくる
人びとよ
.....

かならず
この文を
見てくれん
ことを



諸行無常
生滅滅

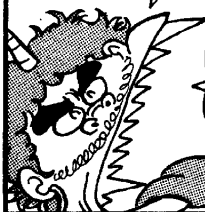
大変ながらく
おまたせ
いたしました
.....

それでは
この木の
てっぺんから
身を投げ
ますから...

いきます
よーっ

よーし
わしは
口をあけて
まっっておるぞ

ジョーズ
みたいに



ふむ
よい
かくごじや

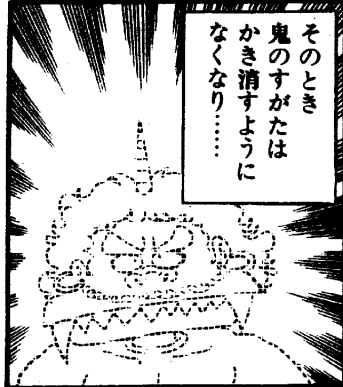


雪山童子は
今はなんの
ためらいも
なく………

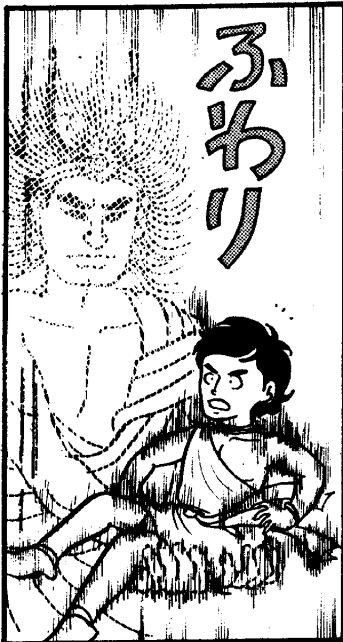


地上の
鬼へと
身を
おどらせたので
あった……

そのとき
鬼のすがたは
かき消すように
なくなり……



ふわり



帝釈天
たいしゃくてん

……
あなたは
……!

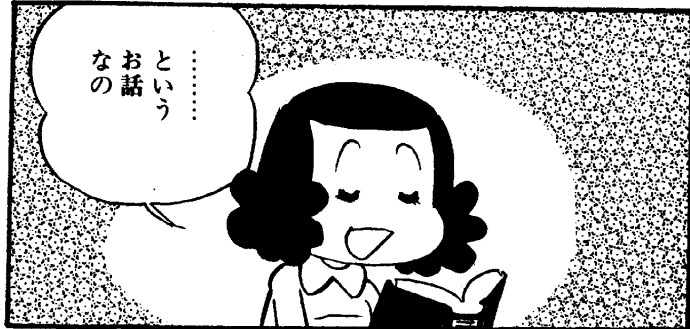
鬼の姿に
身を変えて
あなたの
求道心を
ためしたの
です

やはり
あなたは
真の菩薩で
あられた……

これまでの
数多くの無礼
なにとぞ
お許し
ください……

あなたは
後の世に
かならず
偉大な法を悟り
仏となれるで
しょう……





然れば雪山童子の古を思へば
半偈の為に猶命を捨て給ふ、
何に況や此の経の一品一卷を
聴聞せん恩徳をや
何を以てか此れを報ぜん、
尤も後世を願はんには彼の
雪山童子の如くこそ・あらま
ほしくは候へ

(御書一三八六ページ)

と
述べられて
います

雪山童子は
仏法の
基本的な
おしえの

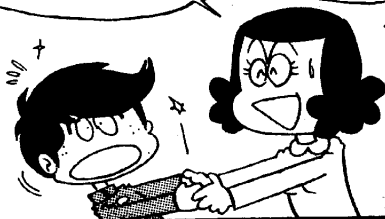


それも
たった
半偈を
きくために
あれほど強い
求道の姿を
示しました

それにひきかえ
私たちは
最高の
法理である
日蓮大聖人様の仏法を
学んでいるの
です

雪山童子に
まけないように
しなくちゃ!!

え~~~~っ
す、す、
すると……



ほくらも
鬼の口に
身をなげる
わけ？

まず

この説話を
単純に

命を

すてることと
かんがえては
いけません

大聖人様は
生命こそ
宇宙一尊い
宝であると
いわれているのよ

大聖人は
日妙聖人御書で
この「雪山童子」と
「樂法梵志」の
たとえをひかれて
います

ぎょうぼうはんじ
樂法梵志

とは

身の皮をはいで
仏の教えを
かきとめた人です

うわっ

樂法梵志・雪山童子等の

ごとく皮をはぐべきか・

身をなぐべきか(中略)

仏になる行は時に

よるべし、

日本国に紙なくば

皮をはぐべし、

日本国に法華経なくて

知れる鬼神一人出来せ

ば身をなぐべし(中略)

あつき紙・国に充滿せ

り皮を・はいで・なに

かせん

(同二二六ページ)

雪山、樂法の時代
と今は、まったく
違うのです

この末法の時に
かなった

修行とは
自行化他に

わたる

南無妙法蓮華経を

唱えぬいて

いくことです

うーん

【自行化他】

自行＝朝夕の勤行・唱題
化他＝折伏

わかった

「雪山童子の
ごとく」

とは！

生涯、求道の
精神を忘れず

この信心を
りっぱに
つらぬいて

いく

ことを
いうんだね！

その
とおり
よーっ

パチ
パチ
パチ
カッ

そして
前にもいった
とおり

法を
おそわるときは
相手の
すがた、かたち
にとられず
けんきよに
きく姿勢と

雪山童子が
後の世の人を
思って行動した
ように
つねに
他の人のことを
考えることですね



それでは
雪山童子に
まけず
がんばって
仏法を
学んで

御書に
挑戦!

えらい
えらい



それが
すんだら
友だちのところへ
友情を深めに
いつて
きまーす

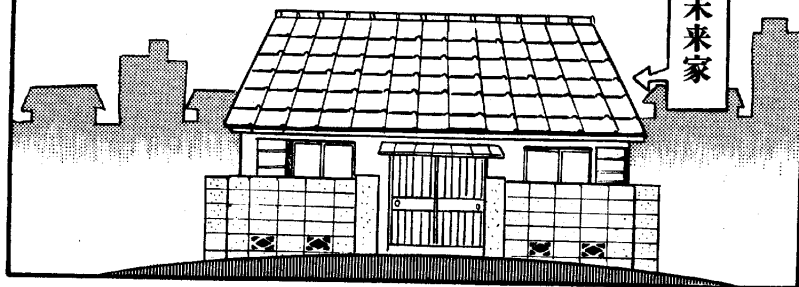
なんの
かんのと
あそび
たがるん
だから……



しや り ほつ
舍利弗のあやまち



未来家



におー

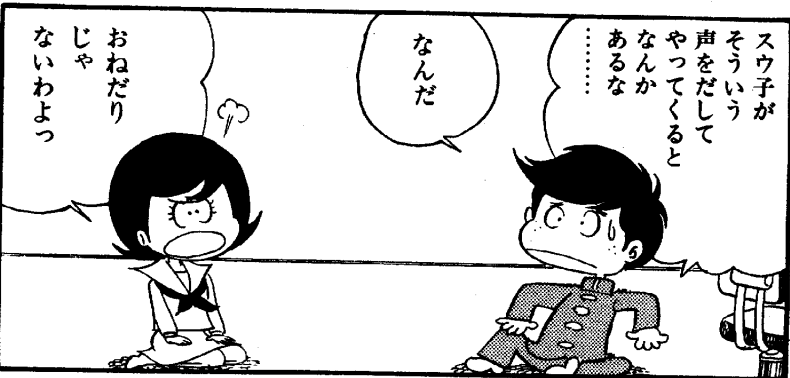


いー
ちゃんっ

スウ子
が
そう
いう
声
を
だ
し
て
や
っ
て
く
る
と
な
ん
か
あ
る
な
.....

なんだ

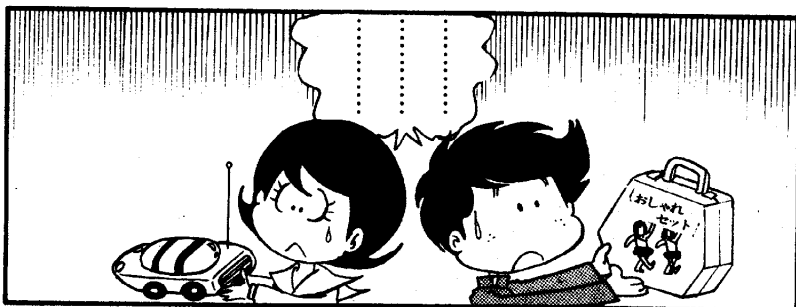
おねだり
じゃ
ない
わ
よ
っ





さっそく
なにが
はいってるか
あけて
みよう

私も
っ



なんだっ
おしゃれ
セット
なんてっ

こんなの
ほしく
ないよ
っ

私だって
ラジコン
カーなんて
いらな
い
わよ
っ



ラジコンカーは
高かったん
だぞー

ぼくがもらえば
大喜び
するのに
っ

私だって
私の一番
ほしいの
買って
きたのに
っ

なんだ
なんだ



せつかくの
善意が……

どーして

相手に

通じないの

かしら……



はっはっ
はっはっ

そら
おもしろい



おもしろく
ないわよ
ケン太郎兄ちゃん



お前たちは
まるで
舍利弗^{しゃりはつ}みたいな
まちがいを
している
からさ



舍利弗って
釈尊の弟子で
智慧第一と
いわれた人
でしょ？

そんなえらい
舍利弗が
まちがいを
したの？
信じられない
わねっ

うん
舍利弗が
ある日
二人の弟子に
法を教えようと
してね……

えー私は
せんたく屋で
ございます

どうか
正しい
修行法を
おしえて
ください……

それでは
数息観^{すそくかん}の
修行から
やってみなさい

ゴシ
ゴシ

数息観とは
乱れた心を呼吸を
数えてととのえる
修行です

スーハー
スーハー
と呼吸しつつ
その息を
一から十まで
くり返しかぞえ
ることによって
心の乱れをとど
めるのです

へえー

あのー

私は
カジ屋
ですが

どうすれば
悟^{きこも}を得る
ことが
できるで
しょう

あなたは
ふじゅうかん
不浄観を
修行
なさると
よからう

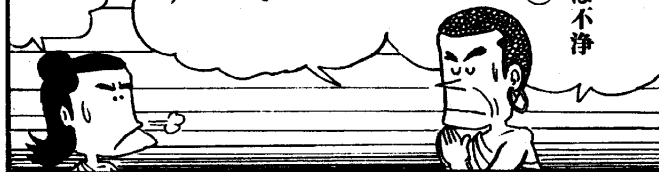


人間の肉体、
そして死体は不浄
な(きたない)
ものです

その不浄な
姿を思う

ことによって
煩悩^{ぼんのう}から
離れるのです

はあ
さようで



こうして二人は

舍利弗に

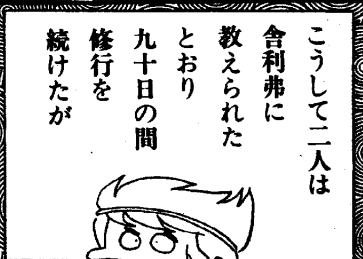
教えられた

とおり

九十日の間

修行を

続けたが



どうしても

法を

悟^{さと}ることが

できなかった……



もちろん
この二つの
修行法は

いずれも小乗教の
低い教えです
……念のため





舍利弗尊者の
いうとおりに
修行をしたが
何も
得られない

私も
おなじだ

よし
仏道修行なんか
やめて
しまおう!!



という
わけで
お釈迦様

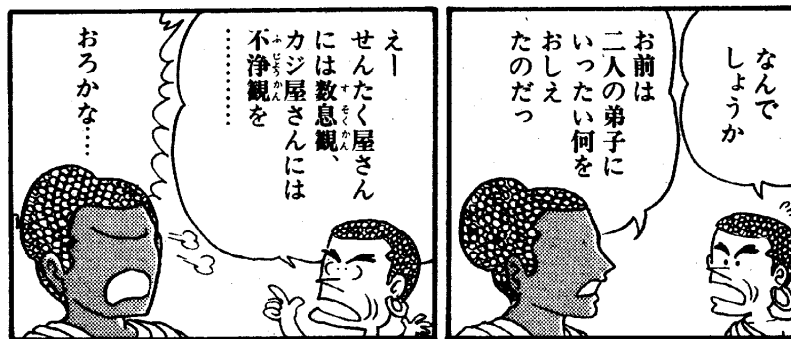
なっとく
できないので
弟子を
やめることに
いたします

なんと!

舍利弗!!

舍利弗

!!



なんで
しょうか

お前は
二人の弟子に
いったい何を
おしえ
たのだっ

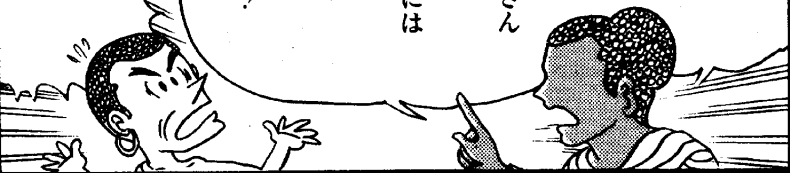
えー
せんたく屋さん
には数息観、
カジ屋さんには
不浄観を
.....

おろかな...

お前は
二人に
さかさまに
おしえて
しまったのだ

せんたく屋さん
には
不浄観、
カジ屋さんには
数息観を
おしえれば
どちらも
納得
するものを！

えーっ
そんなもの
ですかっ



こうして
釈尊は
せんたく屋さん
に不浄観を
おしえ……

あ、
なるほど

たしかに
人の身は
不浄な
汚れた
ものです
私たちは
つねに
そのことを
思わねば
ならないでしょう！



カジ屋さん
には
数息観を
おしえた

おっしやる
とおり
です！

数をかぞえ
呼吸を
ととのえ
ると
心が乱れず
何事も
成就します

それが
仏道修行の
第一歩に
なるのですね！



こうして
二人は
たちまち
阿羅漢果を
得

よろこび勇んで
仏道修行に
はげむので
あった

【阿羅漢果】

声聞が小乗教で得ること
ができる最高の悟りの位

舍利弗よ
おまえが
どういう
まちがいをおかしたか
わかる
かね

よく
わかり
ました

人を
導く
善知識
とは
つねに
相手の立場や
境涯を
よく考えて
法を説く人
でした……

と
いう話だ

世の中には
いろいろな
立場の
人がいる

それらの人に
こちらの意思を
伝えるためには
かならずその人の
性格や立場まで
よくよく考えて
あげなければ
いけないのだ

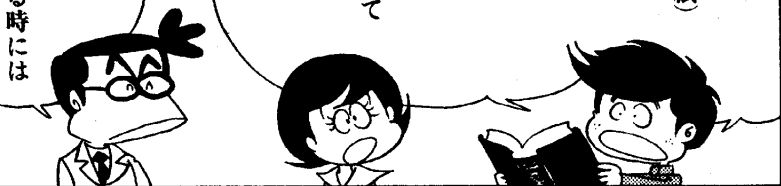
うーん

そういえば
日蓮大聖人の
ご消息文(お手紙)
などを
拝読すると

大聖人様は
いつも相手の
立場や
信心状態を
よく見極められて
的確な指導を
されていますね

その
とおり

だから今
私たちが
御書を拝読する時には



その御書の
あらわされた
背景と大意、
対告衆^{たいこしゅう}などを
よく勉強して
おいた方が

より深く
理解できる
ということ
だね

あー
そうかつ



ちよつと話が
横にそれたけど
このたとえ話を
もう一步深く
考えるならば

仏法には
かならず
機根^{きこん}というものが
あると
いうことだ

キコン?

仏のおしえを聞き
入れる衆生の
能力のことだよ



正法・像法
時代の衆生は
釈尊の仏法の
低いおしえでも
それなりに
救われることが
できた

しかし末法は
それらのおしえは
役に立たない……

【正法・像法】

釈尊滅後の一千年を正法、
二千年を像法という

日蓮大聖人は
「教機時国抄」のなかで
舍利弗のあやまちの
話を引かれ

末法には
三大秘法の
南無妙法蓮華經こそが
私たちを幸福にすることが
できるおしえである（大意）と
のべられています

そうか
だから僕たちは
数息觀や
不淨觀の修行を
したってなんにも
ならない
んだね

ちゃんと
御本尊様を
いただいて
いるんです
ものねっ

そーいう
ことです
！

それじゃ
この
プレゼント
どうする
かな……

おたがいに
とりかえっこ
すれば
いいんじゃない？

わーっ
これで
前からほし
かったのが
手にはいった
!!

私も
これが
一番
いいわーっ

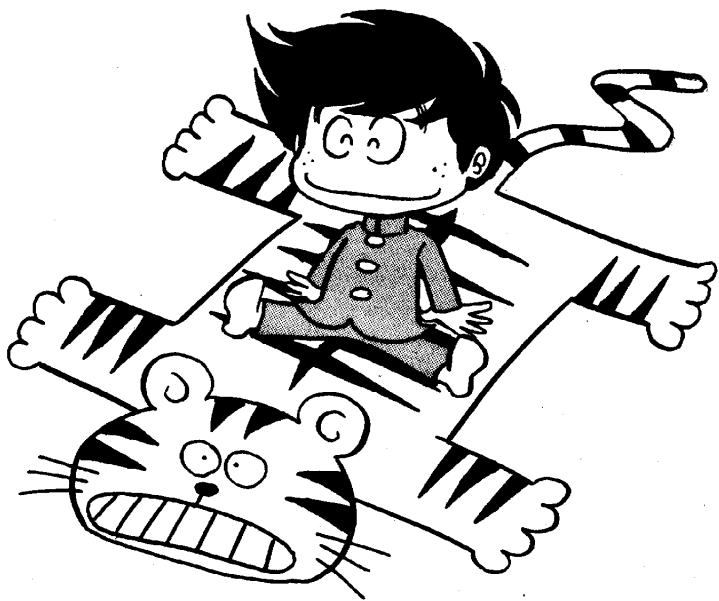
はっはっは
めでたし
めでたし

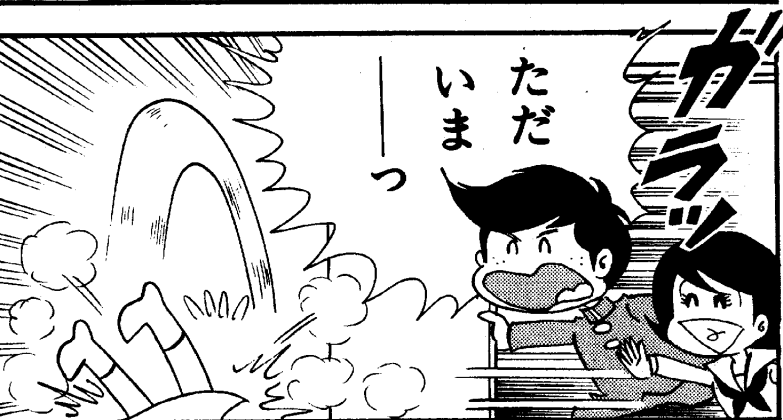
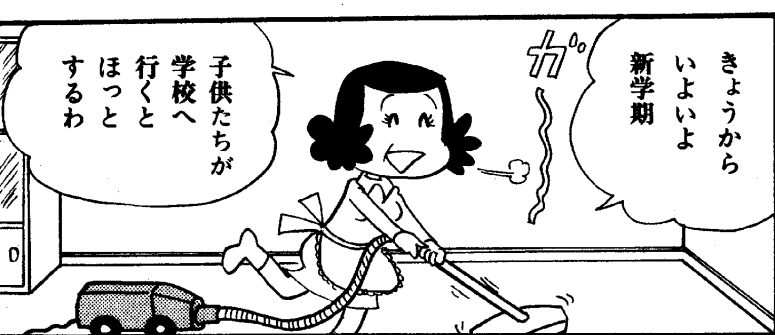
いーえ
まだ
めでたく
ありませ
んぞっ

そーよ
ケン太郎
にいちやん
からまだ
もらって
ないもん

わ
やるやる
やるーっ

せつ こ しょう ぐん
石 虎 将 軍





そうそう
お母さん

式のと
校長先生が
変なコト
いったよ

どんな
コト?

最近の
中学生は悩みに
直面するとすぐ
あきらめたり

無気力に
なったりすると
いわれますが

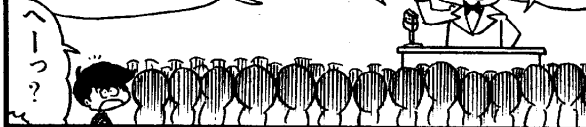


みなさんは
けっしてそんな
中学生になら
ないで

がんばって
かならず未来を
きりひらいて
いきましよう

一念
岩をも
通すとい
言葉が
あるくら
いです

なにも
変なコト
いわれて
ないじゃ
ない……



いや
「一念
岩をも通す」って
どーいう
ことなの

それは中国の
李広將軍の
故事から
きている
ようよ

御書にも
李広將軍の話は
あちこちに
出ているわ

えー
ホント?



じゃ
兄さんたちが
帰ってくるまで
李広將軍の
話をして
あげます

はい

中国の
漢の時代
李広という名の
青年がいました



李広は
弓をとっては
並ぶものも
ないほどの
名人でした



そして彼は、その
腕を王から認めら
れ外敵の侵入を防
ぐべく辺境の守り
についたのです

ある日
村人が
不幸な
しらせを
もってきた



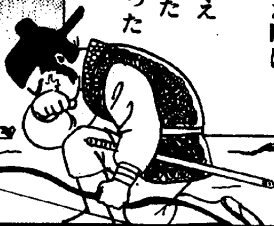
李広の母
(二説には父)が
散歩の途中
人食い虎に
おそわれたと
いうのだ!



【漢】紀元前二〇二―後二二〇
秦に続く中国の
統一王朝時代

李広は
かけつけた時は
母の息は
すでに絶え
虎は逃げた
あとであった

李広は
母を殺した虎に
ふくしゅうを
ちかい……



それ以来
くる日もくる日も
李広は山野を
かけにかけ
にくい虎を
さがし求めた……

そして
ついに……



いた！

草原に
ひそむ
虎に
出あう
ことが
できた！！



李広は
弓を引く手に
あらんかぎりの
一念をこめ
ひようと放てば

ねらいたがわず
矢の根元まで
ふかぶかと
つきささった!

しかし
虎はなぜか
身じろぎ
ひとつ
しない……

はて?

近づいて
李広が
よく見ると

それは
虎に
いた
一個の
大岩であつた

しかし
なぜ
石に矢が
ささったの
だ……

李広は
あまりの
ふしぎさに
しばらく
ぼうぜんと
していたが……



やがて
気を
とりなおし
ふたたび
この岩を
射てみたが

矢は二度と
この大岩に
つきささる
ことは
なかった
……



わが母の
仇である虎を
射殺して
やろうと思う
心が強かったから
岩に矢が
立ったのか……

ただの岩だと
思った時には
もう矢は
これを
つらぬくことは
できないのだ……



その後、李広は
めざす虎を
見事に射とめ
た

人びとは
李広を
「石虎將軍」と
よびその名を
語り伝えたので
ある……



大聖人は

四条金吾殿御返事

(御書一一八六ページ)

日女御前御返事

(同一二四五ページ)

内房女房御返事

(同一四二二ページ)

などにこの李広將軍の話を
引かれて
いるの

そういう
お話だった
のね

へえ……っ



もちろん

この話は困難な

ことに立ち向かう時

一念をこめて実行すれば

どんなむずかしいコト

でもなしとげられると

いうことよ

だけど

私たちは

信心の立場から

この説話を

もう一つ深く

読んでいかなければ

いけないの



さまざま

困難に

ぶつかった時

唱題を根本に

懸命に

努力していけ

ばかならず道

は聞かれる

のよ

そうか

大事なものは

“信”の

一字だね!!

そう!

私たちは強い

信心の一念と

真剣さを

もって

御本尊様に

祈っていく

ことが大切

なのね

よし

新学期からは

信心も勉強も

ともに

がんばるぞーっ

今回は

わしらの

出番が

まったく

なかった

なア

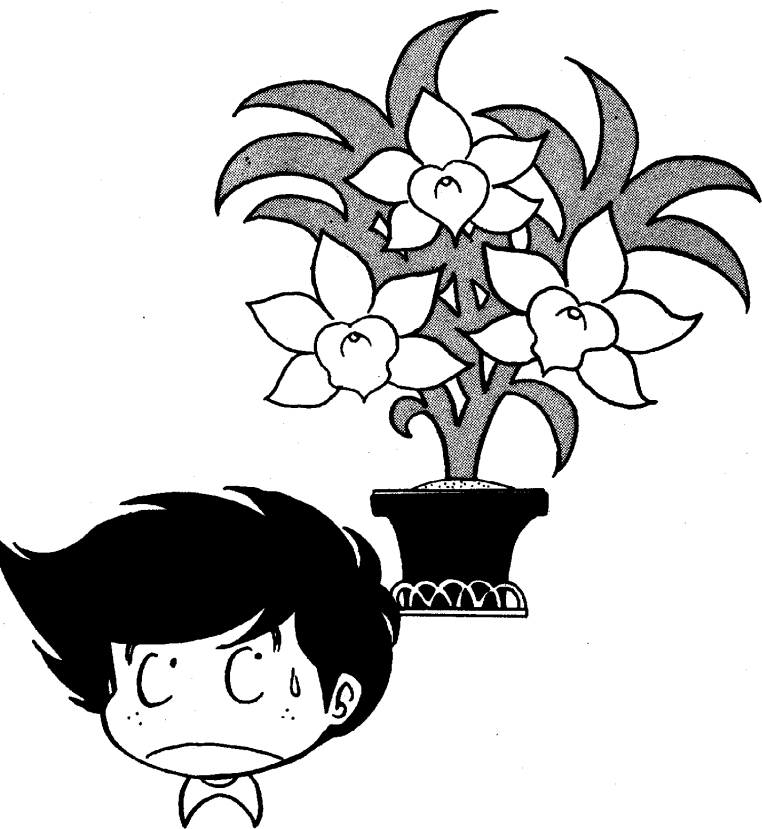
ぼくらも

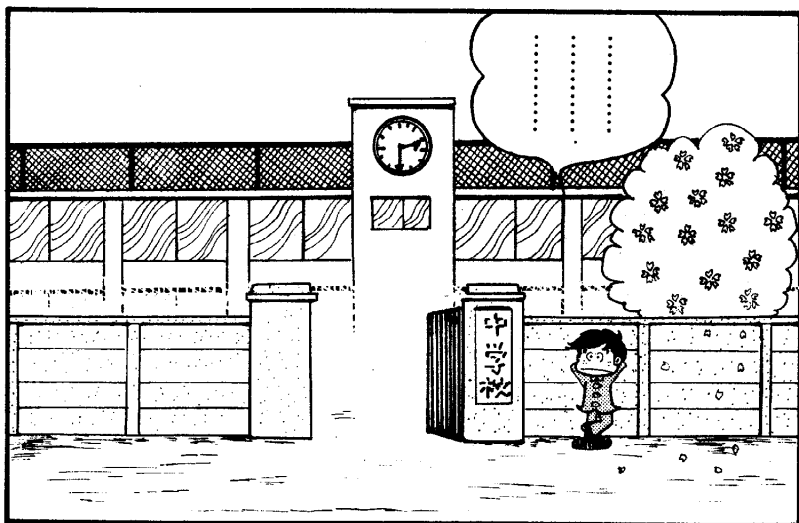
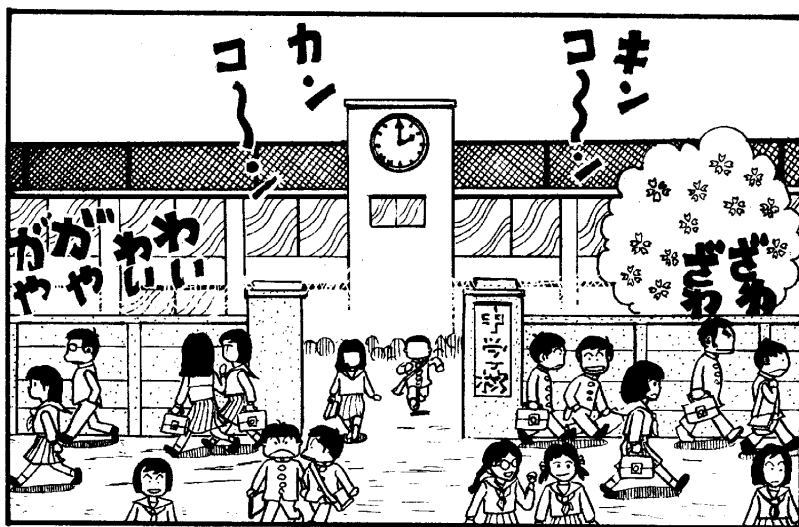
がんばる

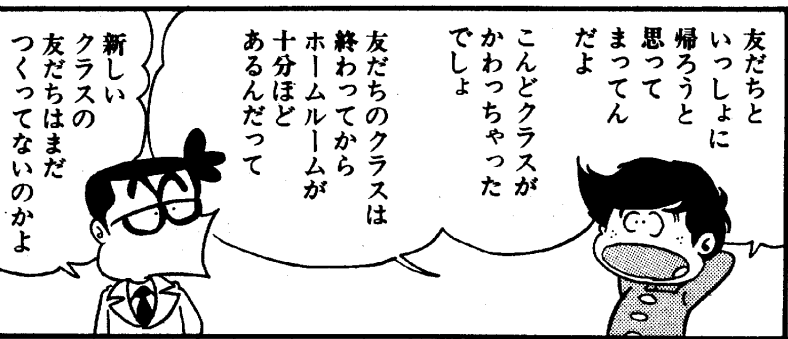
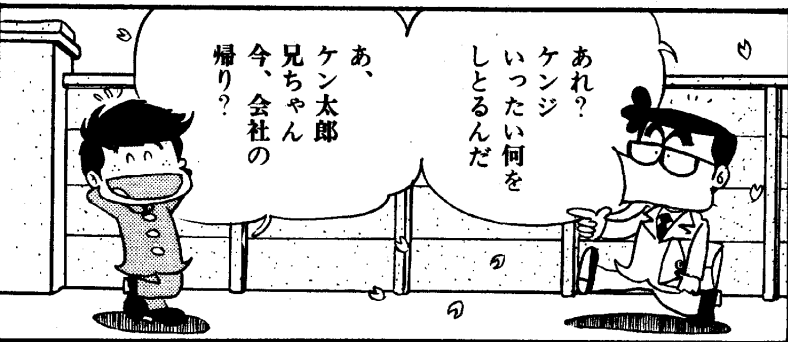
からね

ーっ

らん しつ とも ま ほ しょう
蘭室の友、麻畝の性







うん
まだ

僕はわりかし
人見知り
するタチ
でね……

おーおー
いっちょ
前に

そりゃ
だれとでも仲よく
するのが
もちろん
いいけど

親友って
いうのは
なかなか
できないからね

そりゃ
そうだ

一生の
友人と
いうのは
十代に
できることが
多いしな

社会人に
なつてからは
友だちを
つくるのが
なかなか
むずかしく
なるもんだよ

あ~~~~
そうなの

ケン太郎

兄ちゃんは
どんな友だちを
つくるべきだと思
う？

そりゃ

「らんしつ蘭室の友」を

つくるのが
一番だ!!

やっぱり
お兄ちゃん
はメガネを
かけてるから
そういう
友だちが
いいのかな

なんで？

「乱視の
友」って……

乱視^{ランシ}じゃ

なくて

蘭室^{ランシツ}っ!!

これは
「立正
安国論」に
ちゃんと
出てくる
言葉だぞっ

はーい
はい

わーっ
つねに
御書を
持ち歩いて
いるのは
やっぱり
えらいなアーっ

「立正安国論」は
もつとずーっと
はじめの方
だよ

わかっ
とる！

それじゃケンジは
「立正安国論」に
ついて
だいたい
のことは
知ってるな？

うん
客と主人の
問答形式で
書かれて
いるね……

日蓮大聖人が
主人の立場で
客を折伏
するわけ

最後に客が
正法に
目ざめて
主人とともに
正法を弘めることを
ちかう話だよ

大聖人
第一回の
諫曉の
書でしょ

そうノ
時の権力者
北条時頼に
提出されたのだ



その「安国論」の
終わり近く……で

主人が
改心した客に向
かいこのたとえ
話を引かれてい
るのだ

?



よろこば
悦しきかな
なんぢらんしつ
とも
汝蘭室の友に
まじわ
交りて麻畝の
しょう
性と成る
な

(御書三二ページ)

つまり
蘭の花が
いっぱい咲き乱れ
た部屋(蘭室)
に

わー
いい
におい……

しばらくの間
はいって
いれば



その香りが
いつのまにか
自分の体に
しみ込み

まあ
すてき

自分の体から
すばらしい香りが
ただようように……

徳の高い
すぐれた友人と
つねに接し
対話を重ねれば
しらずしらずの
うちに自分自身も

感化されていく
——この高徳の
人を「蘭室の友」
といいます

「立正安国論」で述
べられた「蘭室の
友」とは、正しい
仏法を教え、弘め
る人であり、日蓮
大聖人御自身をた
とえられた言葉な
んだ

ああ
そうか……

すると

「麻畝の性」

つていうのは

なんのこと

？

それは
つぎのページを
めくって
ちようだい

をたらんしつ
汝蘭室の友に
まじり
交りて麻畝の
性^{しやう}と成る……

まほ
麻畝と
いうのは
あまほ
「麻畑」の
ことだ

麻の
畑？



日蓮大聖人は、大聖
人の道理にふれ、仏
法についての間違っ
た考え方を改めた客
の姿を「麻畝の性」
と述べられた

あま
麻という
植物は
まっすぐに育つ
性質を
もっている



それとは逆に
ヨモギは
地面をほう
ように
ねじまがつて
生えていく
……

そこでこの
ヨモギを
麻畑の中に
植えると
……



ヨモギも

麻と同じように

まっすぐ育って

いくというわけだ

あはー
なるほどっ

「その人を知りたければ
その人の友達を見よ」
という意味の言葉がある
ように

それほど

「友人」から

受ける影響は
大きいのだ

すぐれた
良い友と
接していくことは
“人生の宝”を
得るようなものだ

だから
仏法は
友の存在と
いうものを
重要視
しているの
だよ

ふうーん

「蘭室の友」や
「麻敵の性」の
たとえのように

僕らは
積極的に
先輩に
ぶつかって信心を
学んでいくとともに
すぐれた友と
交際していく
ようにしたい
ものだね

うん
よく
わかった
よノ

すると
.....

自分の成長に
つながらない
ような
つまらない
友だちとは
つきあわない方が
いいってわけだ

ほほー
すると
.....

ケンジが
だれか
すばらしい友人と
つき合いたいと
思っても

その友人は
ケンジなんかと
つきあうより
もつといい友を
さがすだろう
な

ぐちゃっ

ああ~~~~
そうか
そういう
ことに
なるねーっ

な

そういう
一方的な
自分の利益だけを
求めるような
ものの見方
では本当に良い
友人を
つくることは
できないぞ

だからといって
おたがいに
なれあいになって
甘えた
つきあいに
なっても
成長は
ない!

真の友情と
いうのは
お互いに
みがきあい
はげましあつて
ともに成長
していこうという
前向きな
交際でなければ
ならないのだ

そして
友だちが
悩み苦しんで
いる時は
ともに苦しみ

今度は
ケンジ自身が
「蘭室の友」に
なってみせると

いう
自覚に
立っていかな
く
ちや

そうか
そうしないと
信心している
資格が
ないねっ

つまるところ
自分自身の
姿勢が
問題なのだ

自分をとりまく
あらゆる人
あらゆる環境から
なにかを学んで
いこうという
積極的な
姿勢をたもって
いくことが
大事である……
と

高等部の
指導にも
あるぞ

聖教新聞
3月19日付
(1979)

はっ

また一九七九年4月8日の
聖教新聞「名字の言」
にもこうある

ふうーん
スクラップ
してるん
だね

真の友情は
本当に尊く、
人生の
限らない力で
さえある
……

いかなる場合にも
心から激励し
御本尊へと
導いてくれる友が
いることは
どれほど力強い
支えと
なることが

名もなき
庶民の
友情ドラマを
無数にはぐくんでき
たわが人間組織……
さらに「一人」の友を
大切にしゆくことを
心に誓いたい

また
古今の名作にも
友情をテーマにした
物語は多い

「永遠の都」や
「走れメロス」と
いった物語や
小説をケンジも
読んだ方が
いいな

うん
そうする
よ!

それは
そうと
お前の友だち
おそいな

そう
いえば
.....

?

こい
こい
っ

さつきから
二人の話を
聞いてたんだ

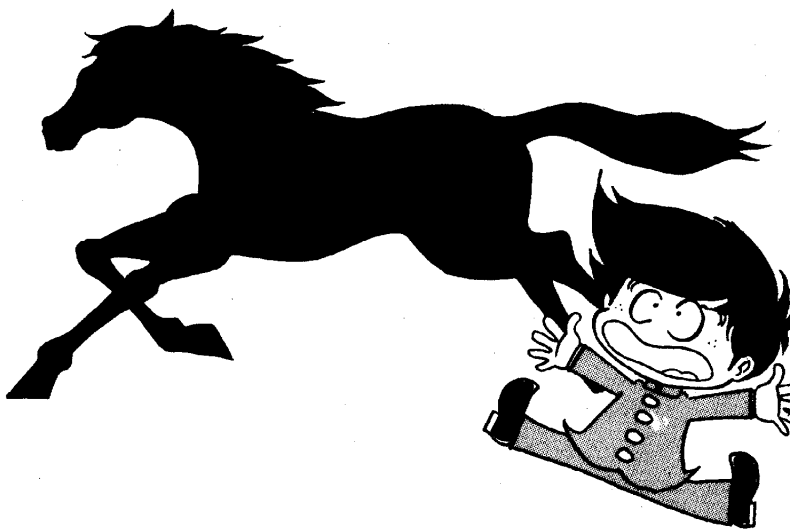
とっても
よかった
わ

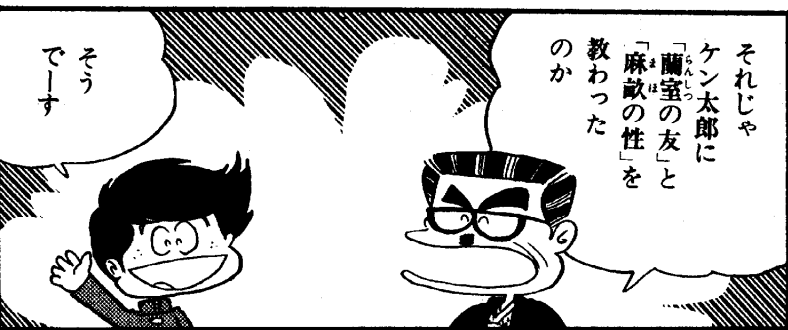
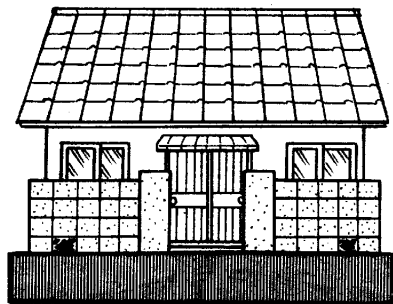
こーいう
友達を
もたなく
ちやな

わー
はずか
しいっ

ほらほら
人見知り
しないで!

そう よう へき ら
蒼 蠅 と 碧 蘿





蒼蠅そうようき尾びに附ふして
万里ばんりを渡り
碧蘿松頭へきらしやうとうに懸りて
千尋せんじんを延ぶ

(御書二六ページ)

蒼蠅とは

ほら
そこに飛んでる
青バエの
ことだ

ぷ
く
く
ん



わっ

この青バエが
自分だけで
どんなに
がんばっても

そんなに
遠くまで
行けるものでは
ないだろう

そりゃ
そうだね



しかしもし
ここに
一日に千里を行く
といわれる
駿馬^{しゅんば}（驕^{きやう}）が
いたとして

はっし

青バエが
この驕^{きやう}の尾^び（驕^{きやう}尾^び）に
必死で
しがみついていたれば――



びゅー



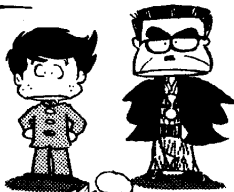
青バエは
驕^{きやう}とともに
またたくまに
千里、万里を
行くことが
できる――
（驕^{きやう}は伝説上
の馬）

わー
速い!!



さて碧蘿^{ひさろ}とは
緑色の
ツタカズラの
ことだ

これも
自分だけでは
上にのびていく
力のない
植物である



しかしこの
碧蘿も
松の太木に
しがみつくことに
よって

千尋の
高さにまで
のびていく
ことができる!!



これは
すごいこと
ですね!!



うむ
「立正安国論」
の中で、
日蓮大聖人様
は、この蒼蠅、
碧蘿のたとえを
引かれ主人の
言葉として



自分は
器も小さく取るに
たらない人間では
あるが、仏弟子として
の今日の自分がある
のも法華大乘の
おかげである
——と

述べられていると
ころがある。

もちろん、
ごけんそんなされた
ものだが……。
前に紹介した一節は、
その一部分なのだ

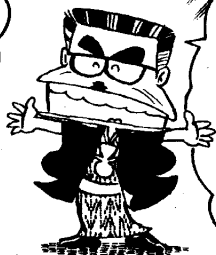
はは

これを信心の上から私
たちの場合について読ま
させてもらえば力のな
い私たち凡夫が

成仏の道めざして歓喜の
日々を送ることができる
のも御本尊様のおかげで
ある——

私たちは
御本尊様を離さず
御書の指導通りに
信心を貫いていくならば

かならず
幸福と成長の
実証を
示すことが
できるのだ
!!



はい
がんばり
ますっ

さて
わしはちょっと
でかけて
くるぞ

あれ?
きようは会合が
ないのに
おかしい
な

映画館

がつちり
しがみついて
きてみれば
.....

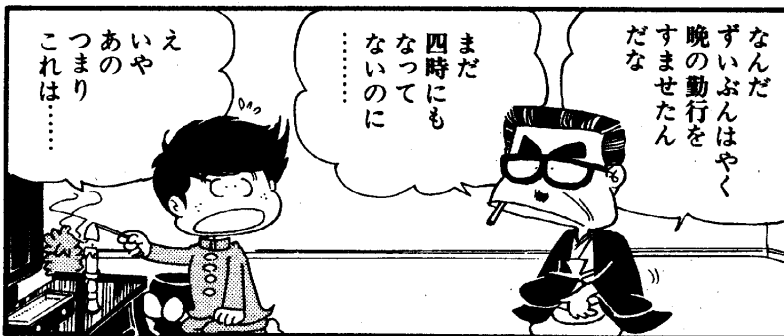
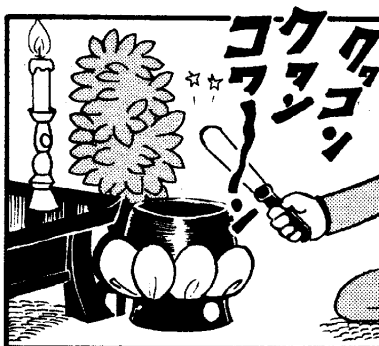
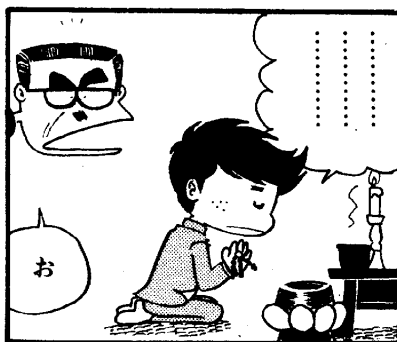
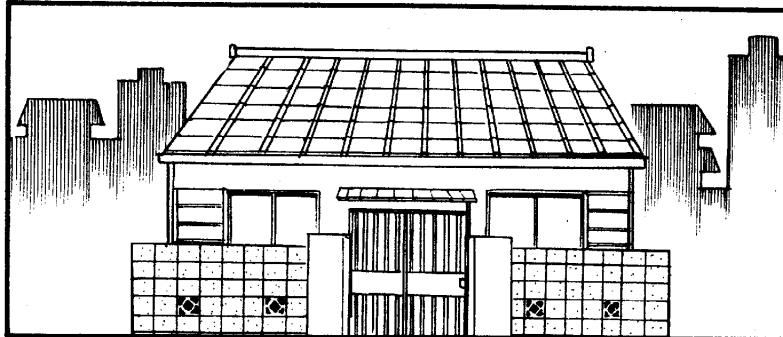
こんな
所に
これた
もんね

わうっ
こりや
いかんわい

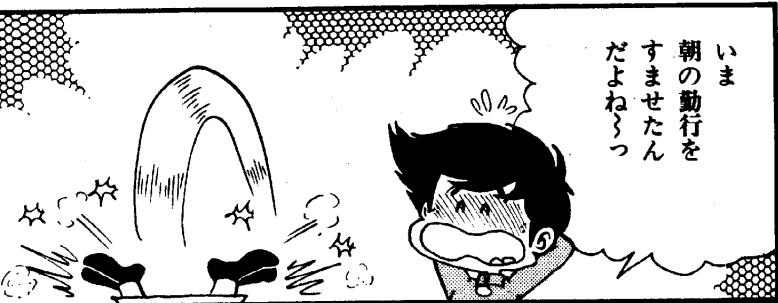


りん だ おう はく ば
輪陀王と白馬





いま
朝の動行を
すませたん
だよねーっ



連休で
ケンジは
だらけ
きつとる
!!

反省
してます……



若いときに
時間をいかに
有効につかうかで
人生はきまると
いうくらいのも
んだぞっ

わしも
時間があるから
少々長い物語を
きかせてやろう
……

わー

スウ子も

おいで

おいで



内房女房御返事
(御書一四二四
ページ)に
こうある

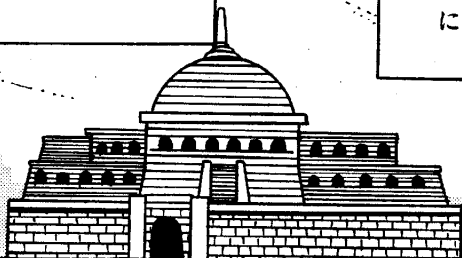


白鳥は
法華経の如し・
白馬は
日蓮が如し・
南無妙法
蓮華経は
白馬の
鳴くが如し
……と



この白馬と
白鳥の話は
「釈摩訶衍論^{しやくまかえんろん}」
などに
類似の話が
伝えられているが
内房女房御返事
(白馬白鳥御書)
によると……

過去の世に
一人の大王が
いた……



その名を
りんだおう
輪陀王

徳が高く
優れた政治を行い
人びとの尊敬を
あつめていた……



この王は
多くの白馬を
かっていた



白馬はいつも
よい声でいなき
その声を聞くと
輪陀王は
勇気がわきあがり
身も心も
若々しく
なっていくのだった

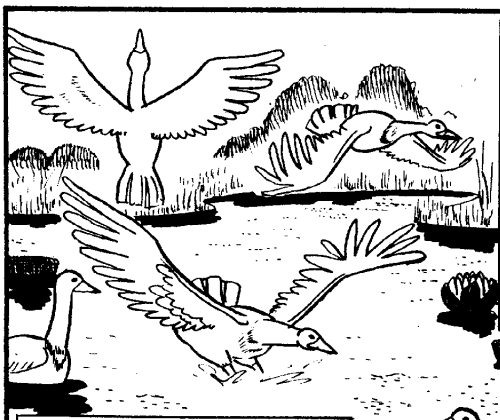


白馬のいななきは
まるで王の
食事のような
ものであった

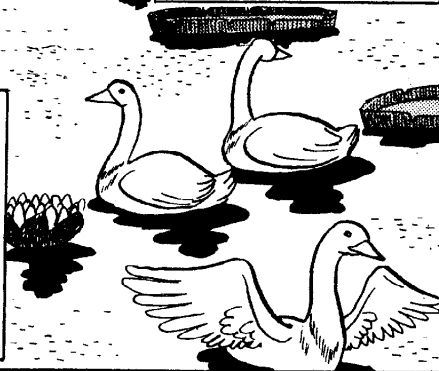
白馬が鳴けば
王の徳は
いよいよまさり
白馬の鳴かぬ日は
王の徳も
失われるほど
である……



さてこの白馬は
白鳥の白く
清い姿を見て
よろこび
いなく性質が
あった――



そのため
輪陀王は
王宮の池に
つねに
数多くの
白鳥を浮かばせて
白馬に白鳥の
姿を見せていた



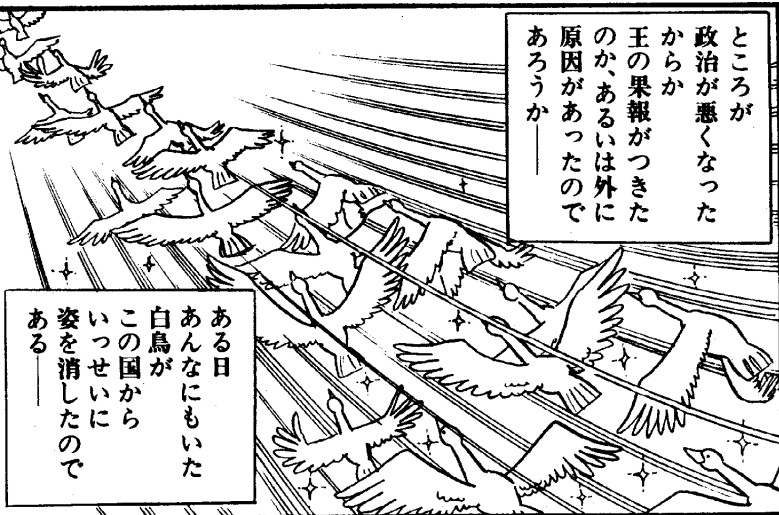
さてこうして王は
白鳥と
白馬の
いななきの
おかげで
身は安穩であり

国もまた
その徳のおかげで
平和が続き
外敵に攻められる
こともなく
数年が過ぎていった――



ところが
政治が悪くなった
からか
王の果報がつきた
のか、あるいは外に
原因があったので
あろうか――

ある日
あんなにもいた
白鳥が
この国から
いっせいに
姿を消したので
ある――





りんだおう
輪陀王の国から
一羽も残らず
白鳥が姿を
消したために

白鳥を見て
いなく白馬も
いまは一声も
鳴こうとは
しない――

白馬の声を
聞くことの
できぬ王は

まるで花が
枯れるかの
ように

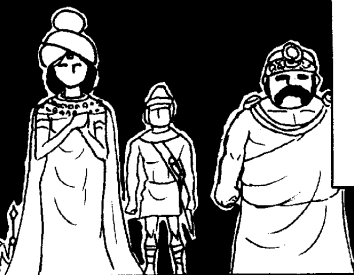
また月の
欠けていく
ように
日一日と
おとろえを
ましていった

肌の色も変わり
力も徳も
失い



その姿は
今にも死にそうな
老人の
ようであつた

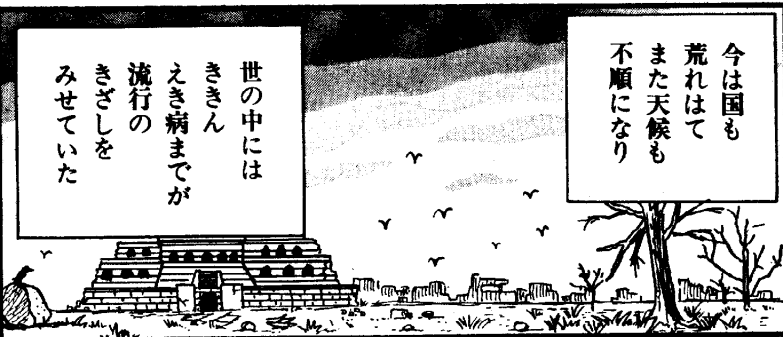
お后はじめ
王子も大臣も
数多くの家来も



国中の人びとも
ふかい悲しみに
つつまれて
どうすることも
できぬ
まま――

今は国も
荒れはて
また天候も
不順になり

世の中には
ききん
えき病までが
流行の
きざしを
みせていた



国が弱まれば
今までなりを
ひそめていた
近隣の国々も
これを見のがす
はずはない

ついに
輪陀王の国は
他国の兵に
攻めよせられる
までに
なってしまった



王の苦悩は
今や限界に
達した

この上はもはや
我らの力では
どうにも
ならぬ

仏神に
祈る
ほかは
ない！



さて
この国は
外道
(仏教以外の
さまざまな教えを)
信ずる者が
たくさん
いた

また
仏法こそ
国を守る法と
思い
これを信ずる人も
少なくは
ない――



白鳥を
この国に
呼び返し
白馬を
鳴かせることが
できたならば

私はその
教えをうやまい
深くあがめるであらう



どちらでも
かまわぬ

!!

このおふれを
聞いて
外道も
仏法者も
顔色を
変えた

白鳥を
呼べなければ
王からも
民からも
見放されて
しまうことは
あきらか
ある――



だが
外道の者たちには
それなりに
勝算があった

かつて
雲を呼び
霧をふらす
ことができた
秘術を
心得た
者――



風をふかせ
波を立てる
法を持った
者――



人を馬とし
馬を人とする
ことの
できる
者――



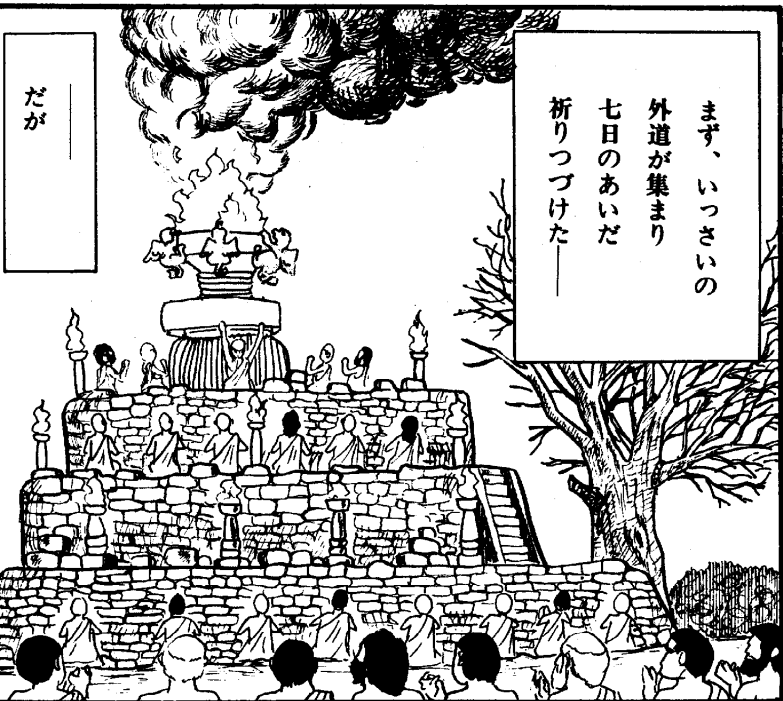
身より
火を出す
者――

それぞれ
通力には
自信があつたので
ある――

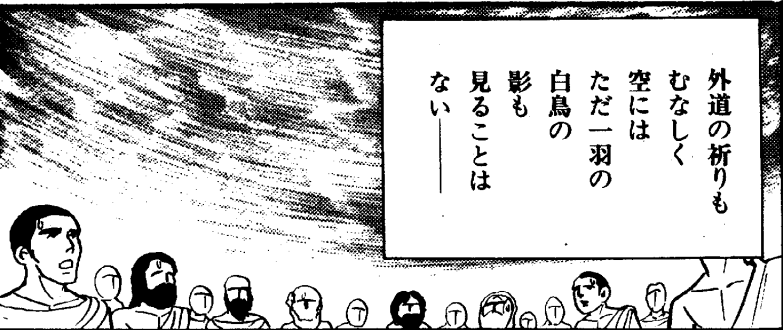
も

だが

まず、いっさいの
外道が集まり
七日のあいだ
祈りつづけた――



外道の祈りも
むなしく
空には
ただ一羽の
白鳥の
影も
見ることは
ない――

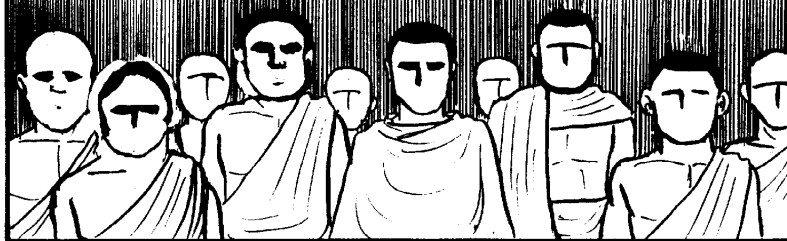


外道の人たちは
一羽の白鳥も
呼ぶことが
できなかった

王は
病の床につき
今にも
死にそうな
ほどに
おとろえて
いた――

外道にかわり
いよいよ
仏弟子たちが
白鳥を呼ぶために
祈る時が
きた

しかしこの
仏弟子たちもまた
白鳥を呼び寄せる
絶対の自信を持つては
いなかったのだ
ある――



この中に一人
馬鳴菩薩と
いう名の
仏弟子が
いた

彼は
確信を持って
のべた



私は法華経を
もって
祈ろうと
思います



馬鳴菩薩は
一心に十方の諸仏に
七日の間
祈り続けた



すると

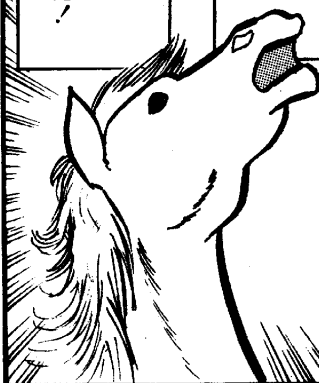
七日目に
一羽の白鳥が
馬鳴の祈る
壇の上に
飛びきたって



一声高く
鳴いたので
ある！

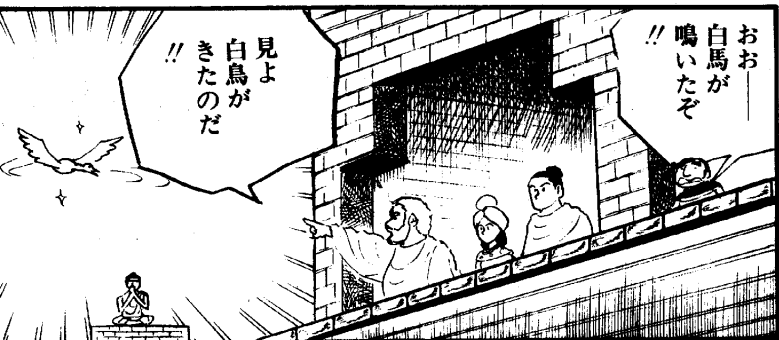
その姿を
見るや
白馬も
また

一声たかく
いなないた！



カ
ハ
ウ





やがて
白鳥は
国中に
充滿した

白馬も
それにあわせ
いななき
はじめ



一頭、二頭、
百頭、千頭と
いななき
つづけたので

輪陀王は
その声を食する
ように聞き
たちまち色つやを
増し若がえって
いった



大王の姿は
太陽のように
かがやき
今や顔かたちも
活気にみな
ぎっている

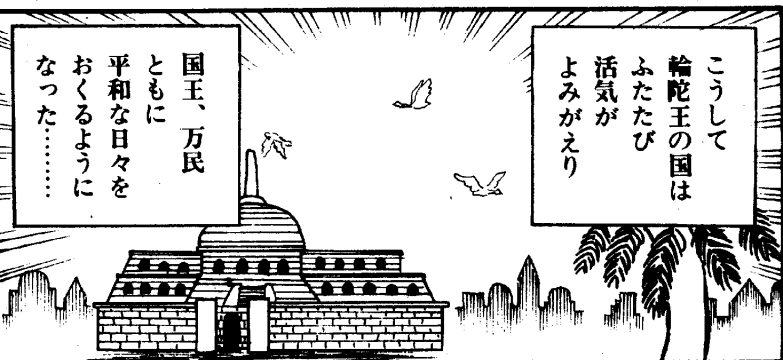


それとは逆に
外道の人たち
の顔色は
青ざめる
ばかり――



こうして
輪陀王の国は
ふたたび
活気が
よみがえり

国王、万民
ともに
平和な日々を
おくるよう
なった……



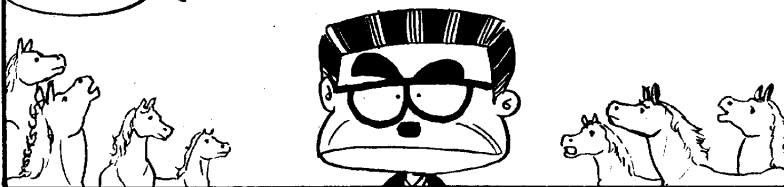
そして
外道の人たちも
ぞくぞくと
仏法を
深く信じる
ように
なったの
である――

へえ



さて

この
輪陀王と
白鳥白馬の
物語は



内房女房御返事

(別名・白鳥白鳥御書

御書一四二三ページ)の

ほか



曾谷殿
御返事

(別名・輪陀王御書

同二〇六一ページ)や

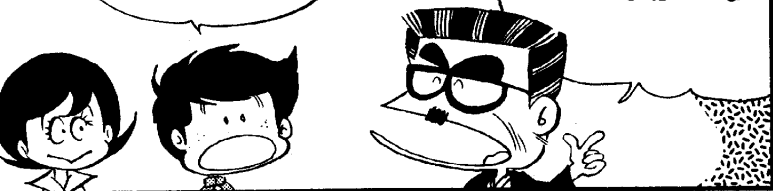
上野殿母御前御返事

(同一五七一ページ)など



いろいろな
お手紙に
大聖人様は
引用されて
いるのだ

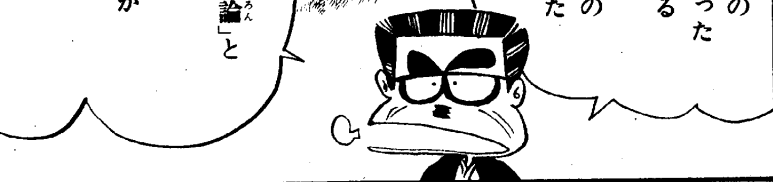
へえー
それじゃ
大事な
話
なんだね



この物語の
原典となった
と思われる
インドの
竜樹菩薩りゅうじゅのぼさつの
あらわした

「釈摩訶衍論しやくまかえんろん」と
いう本の
なかに
あるのだが

それは
ともかく



日蓮大聖人様は
曾谷殿御返事の
なかで
このように
いわれている

一〇六五
ページの
はじめの
ところを
読んでごらん

はあ
~~~~い



しっかり

しかるに日蓮が一<sup>類</sup>い  
いかなる過去の宿<sup>習</sup>しうにや  
法華経の題目のだん<sup>檀那</sup>と  
なり給うらん、

わかり  
やすく  
いうと

日蓮大聖人様の弟子たちは  
どのような昔からの  
つながりによって  
いま法華経の題目を  
唱えているのでしょうか

と  
いわれて  
いるのだ



是をもつてをばしめせ今梵<sup>ばつてん</sup>天・  
帝釈<sup>たいてき</sup>・日月・四天・天照太神・  
八幡大菩薩・日本国の三千一百三十  
二社の大小のじん<sup>神</sup>ぎは過去の  
輪陀王のごとし、

考えてみると  
梵天など  
さまざまな諸天善神  
(自然界のあらゆる  
はたらき)は



この物語の  
輪陀王の  
ようなものです



白馬は日蓮なり・

白馬は  
日蓮大聖人様を  
あらわしています

白鳥は我らが一門なり・

白鳥は  
日蓮大聖人様の  
弟子たちの  
ことです

白馬のなくは  
我等が南無妙法蓮華經の  
こえなり、

白馬がいなくのは私たち  
大聖人様の弟子がと見える  
南無妙法蓮華經の  
声です

此の声をきかせ給う梵天・  
帝釈・日月・四天等いかでか  
色をましひかりをさかんに  
なし給はざるべき、

この題目の  
声を聞くと  
梵天などの神が  
かがやき  
光をつよくして  
力をあらわすの  
です



いかでか我等を  
守護し給はざるべきと・  
つよづよと・  
をほしめすべし

だから諸天善神は  
信心している私たちの  
ことをどうして守ら  
ないわけがあるうか  
と強く  
確信していきなさい

じゃ  
そこまで

そーいう  
わけだ  
から……



私たちが朝晩  
勤行をして  
しっかりと題目を  
唱えていくことの  
すばらしさを

こんなふうには  
大聖人様は  
私たちに  
おしえてくださって  
いるのだから

はあ~~~~い  
だらけた  
勤行は  
ぜったい  
しませーん



あれれ  
おなか  
がすいたのか  
力が  
ぬけて  
きたぞ……

私も

あんの  
声は

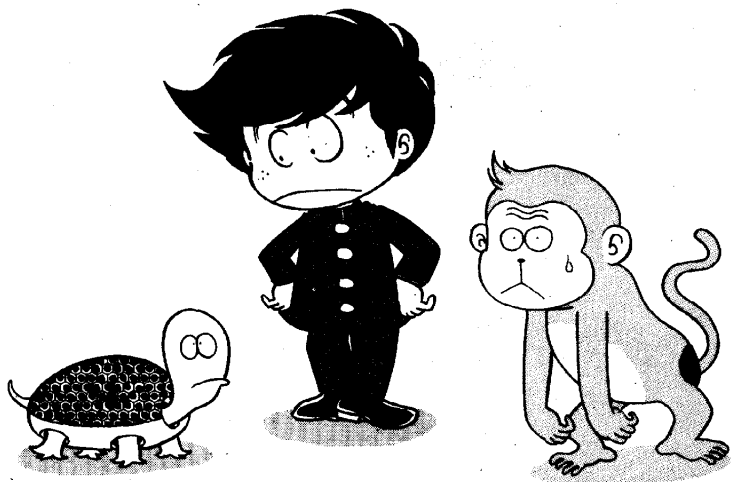


はいっ  
したくが  
でき  
ましたよ

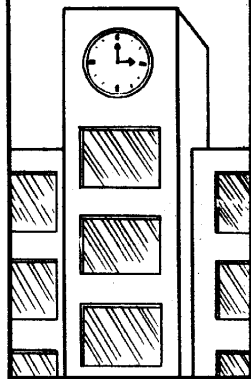
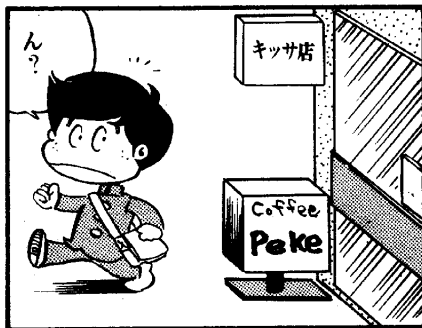
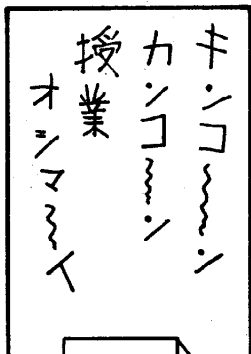
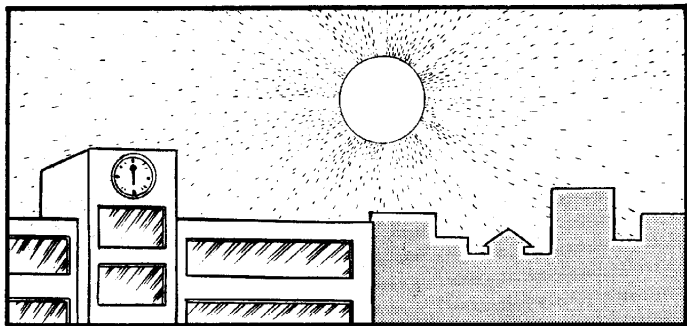
わーいっ  
ごはん  
だ  
ごはん  
だ

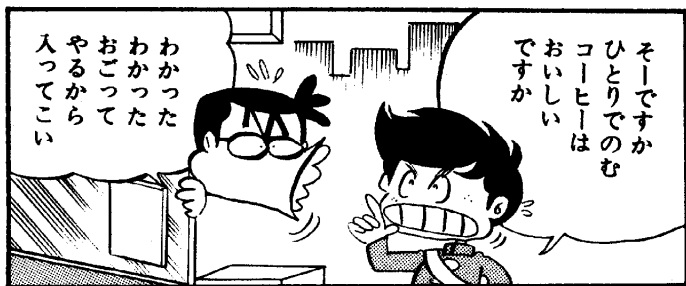
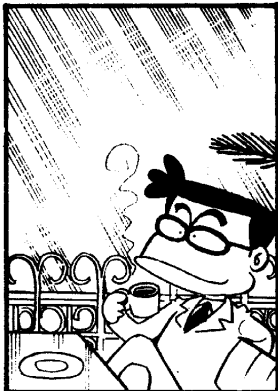


さる きも かめ  
猿の肝と亀





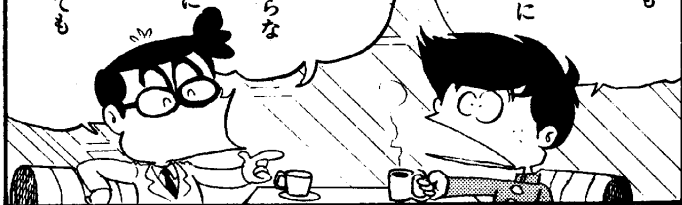




家の近くにも  
キツサ店は  
あるのに  
どうして  
こんなところに  
きたの

この店は  
本式の  
コーヒーを  
のませるからな

兄さんみたいに  
「通」になると  
おいしい  
ところなら  
どんなに遠くても  
のみに行くぞ

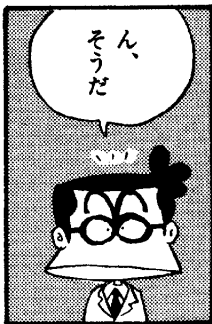


求道心の方も  
それぐらい  
あると  
いいのだけど  
.....

うるさいっ  
ちゃんと  
あるっ



ん、  
そうだ



兄さんは  
コーヒーを求めて  
キツサ店に  
入ったけど

木の实を  
求めて  
なぜか  
海の底に  
行こうとした  
猿の話を  
してやろう

へーっ  
そんな話が  
あるの？



昔……インドの  
海のほとりに  
そびえたつ

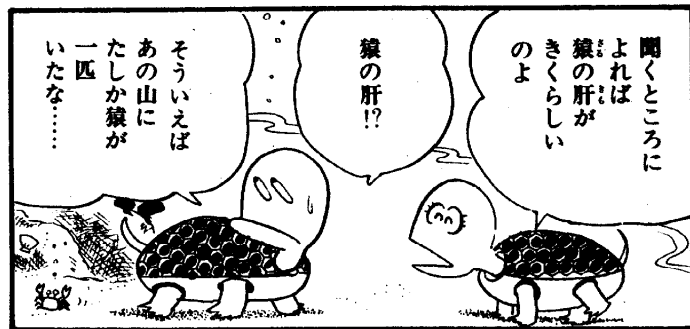
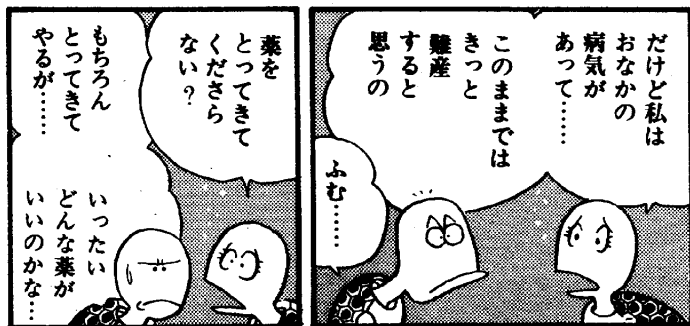
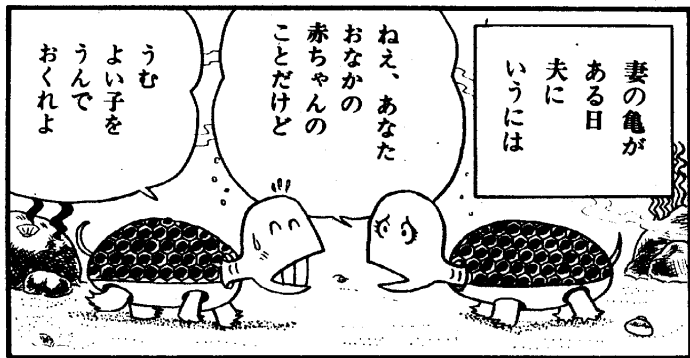
一つの  
山があった……

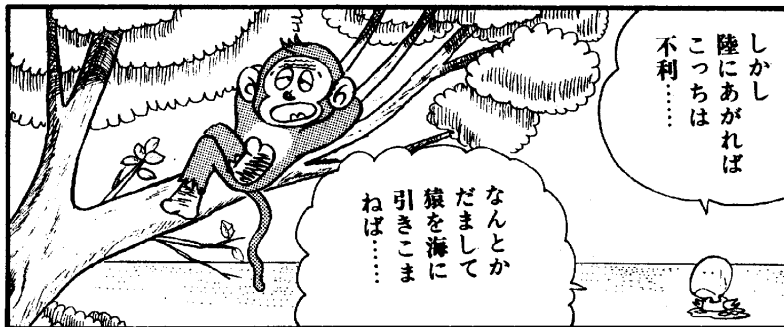
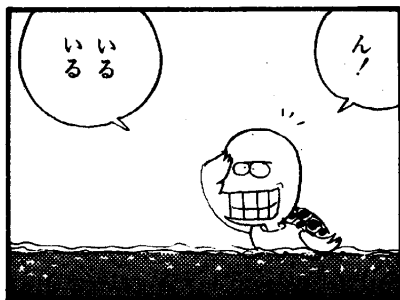
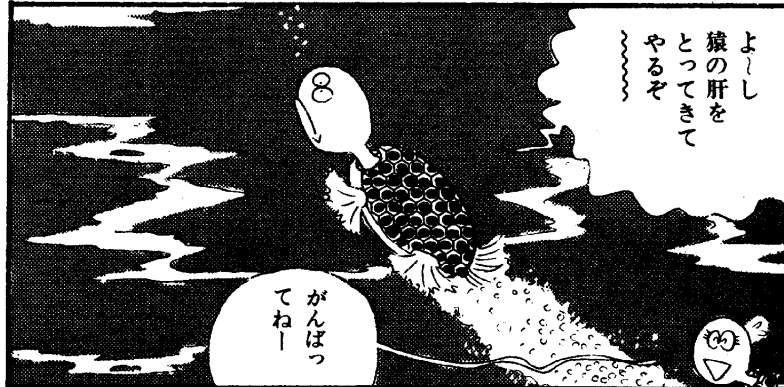
そこには  
一匹の猿が  
すんでいて

木の実をたべて  
くらしていた

さて

海の方には  
夫婦の亀が  
すんでいて……





亀は  
計略を  
思いつき  
猿に  
呼びかけた

猿さん  
猿さん

私は  
もつとおいしい  
木の実の  
あるところを  
知ってるん  
ですがねえ

ほほー  
それは  
どこですか  
な  
亀さん

それは  
私のすんでる  
海の底  
ですよー  
!!

そこには  
一年中  
木の实  
草の実が  
たくさん  
あるし

広い林が  
あるん  
ですよ

あなた  
こんなところに  
いたって  
つまらないですよ  
ぜひ  
いらつしやいな

わ~~~~  
いくいく  
いくいく  
いくいく



だけど  
どうやれば  
そこへ  
行けるの  
かな



私の  
背中に  
お乗んなさい

ほれっ  
ほれっ  
ほれっ

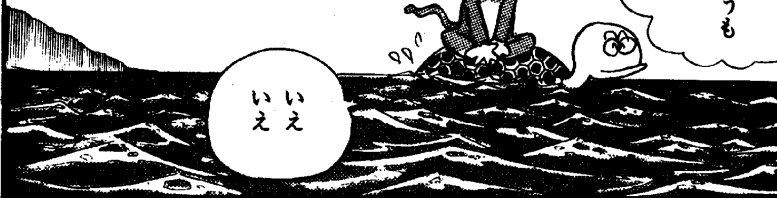


いやいや  
これはどうも  
すいま  
せんな

ザザ~~~~~



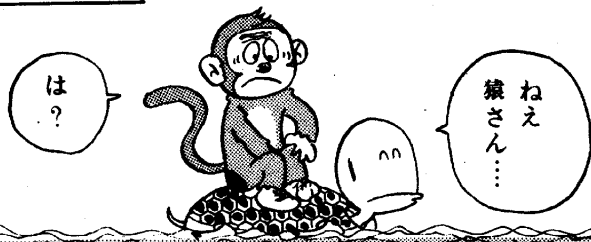
い  
え  
い  
え





何も知らぬ  
猿をのせて  
海の上に  
出てきた亀は

もうこっちの  
ものだとう  
安心感から  
ついペラペラと  
話しはじめた

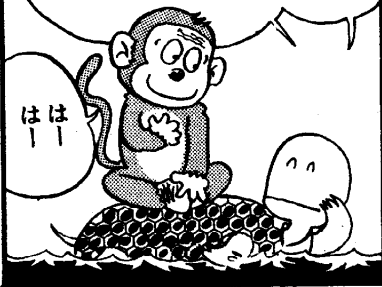
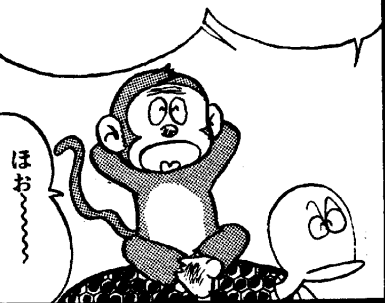


あなたは  
知らない  
でしょうけど

じつは私の妻の  
おなかに  
子供が  
いますてね

ところが  
妻には  
おなかの  
病気が  
あって……

その病気には  
猿の肝が  
とつても  
きくんだ  
そうです



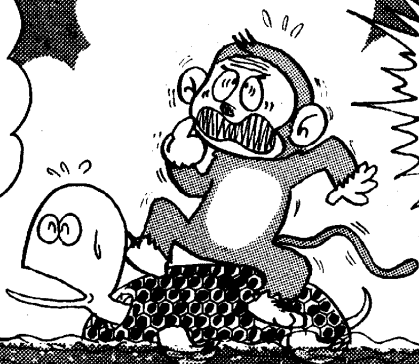
そうですか  
そりや  
いけません  
なア



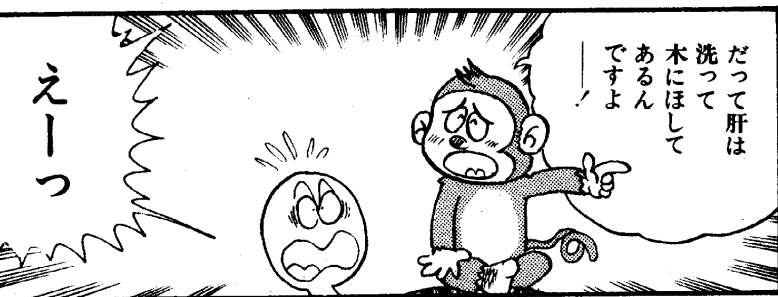
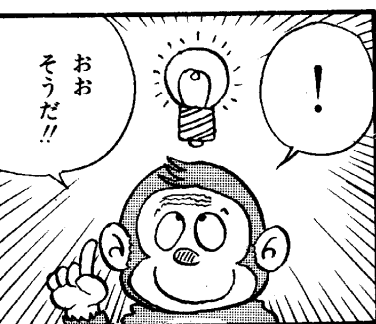
そんなら  
亀さん  
なんとしても  
猿を一匹  
つかまえ  
なきや

きん

ほっほっほ  
それが  
あなたなん  
ですよ  
ね



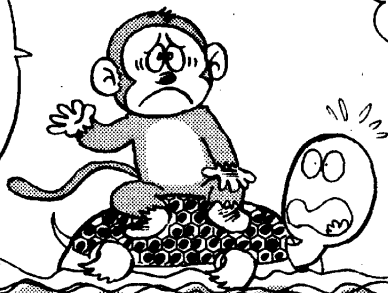
があん...



すると  
あなたの  
からだには  
いま肝が  
入って  
ないんですか!!

そうですね  
おいしいこと  
しました  
ねえ

はじめから  
いって  
もらえれば



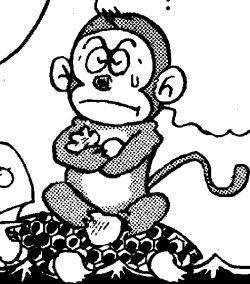
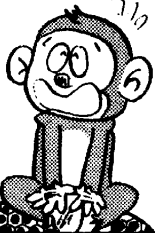
わたしの肝も  
ほかの  
猿たちの肝も  
たくさん  
とって  
これたのに……

すると  
あなたを  
殺しても  
おなかの中に……

入っていれば  
よかったん  
ですがねえ

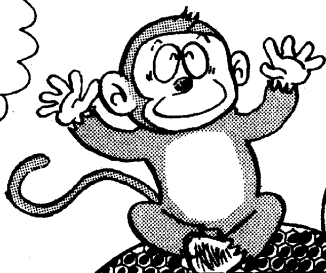
いやー  
さんねん  
です

んむ……



それじゃ  
猿さん

もう一度  
岸にもどれば  
肝をとつてきて  
くれますか



あー  
そりゃ  
おやすい  
ご用ですよ

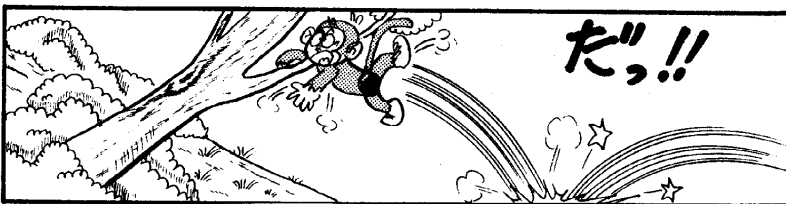
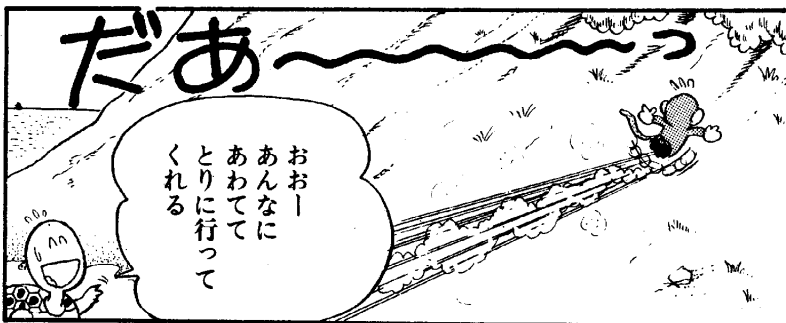
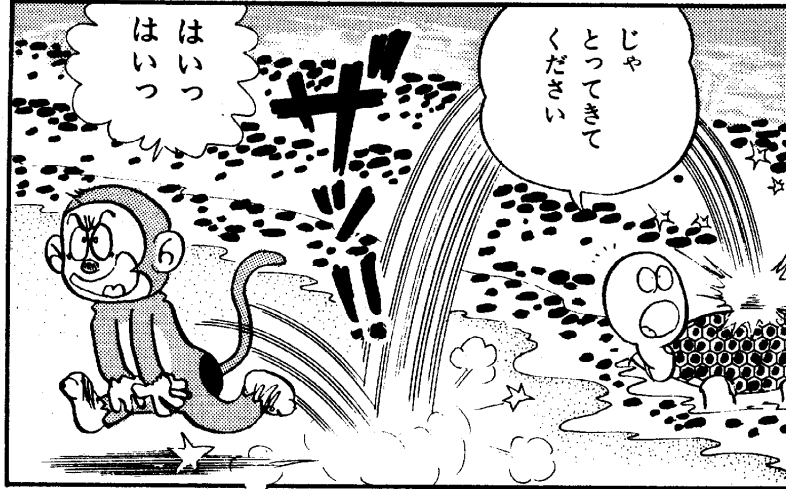
じゃ  
もどりましょ  
もどりましょ

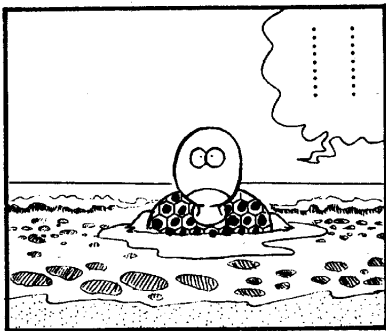
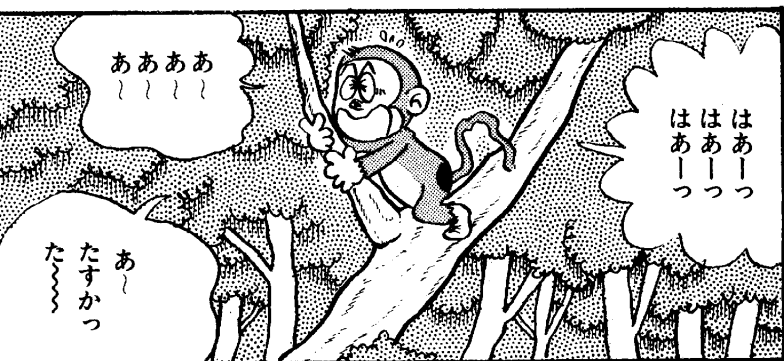
そー  
しましょっ



ザザザ





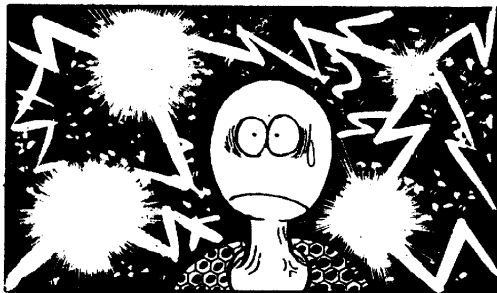


亀さん！

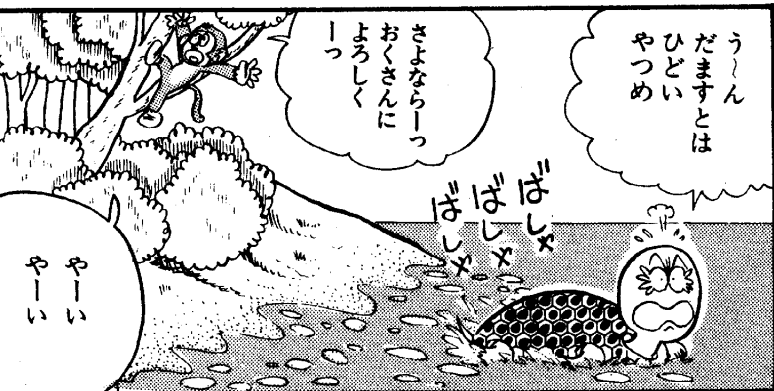
わたしは  
あなたに  
聞きたいん  
ですがね

からだをはなれた  
肝なんて  
いうものが  
どこの世界に  
あるんですか!!

かく……





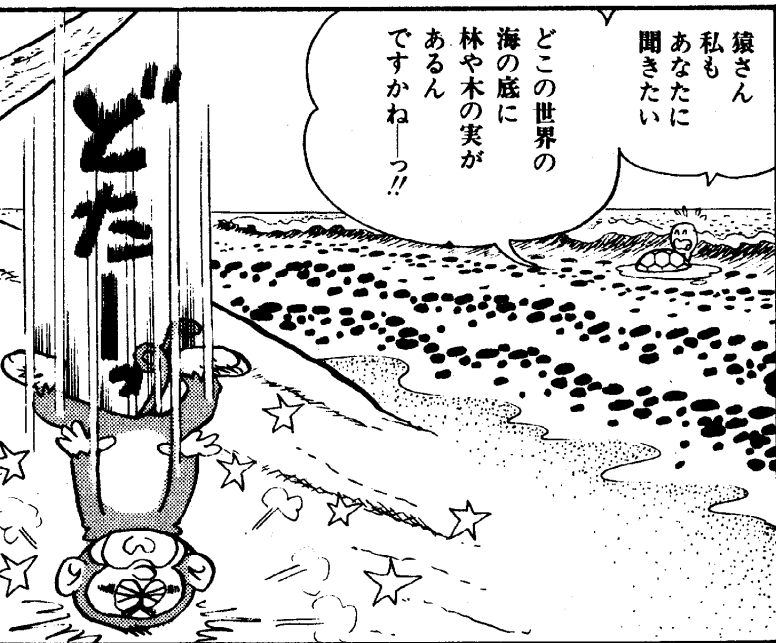


うーん  
だますとは  
ひどい  
やつめ

さよならーっ  
おくさんに  
よろしく

ばしゃ  
ばしゃ  
ばしゃ

やーい  
やーい



猿さん  
私も  
あなたに  
聞きたい

どこの世界の  
海の底に  
林や木の実が  
あるん  
ですかねーっ!!

どた

こうして  
猿の肝を  
とりそこなった  
亀は

むなしく  
海の中へ  
帰って  
行きました……

かあ  
ちゃん  
ごめん  
ね……



……と  
いう話が

「経律異相」と

いう經典の中に

でてる

そうだ

わー  
おもしろ  
かった



とくに  
猿と亀の  
さいごの  
やりとりが  
おもしろ  
かったねっ

うん  
体のそとに  
肝はないし  
海の中には  
木の実が  
ないとい  
うところだ

……で  
これは  
どーいう  
意味が  
あるの？

今おまえが  
いった通り

最後の  
ことばが  
大事  
なのだよっ

あ、  
ホント

日蓮大聖人は  
曾谷入道殿御返事と  
いうお手紙の中で

この  
亀と猿の  
たとえ話を  
ひかれて  
このように  
おっしゃって  
いる……

……

されば題目をはなれて

法華經の心を尋ぬる者は

猿をはなれて肝をたづねし・

はかなき亀なり、

山林をすてて菓を

大海の辺にもとめし

猿猴なり、

はかなしはかなし

(御書一〇五九ページ)

と  
いわれて  
いるのだ……

ん~~~~  
わかるような  
わからない  
ような……

ケンジは  
釈尊五十年の  
説法のうち  
出世の本懐は  
何か  
知っているな？

もちろん  
最後に説いた  
法華經二十八品でしょ



そのとおり!!

その  
法華經の  
眼目というか  
肝心かなめは  
いったい  
何か……?

ん~~~~と

それは!

法華經  
寿量品の  
文の底に  
秘し沈められた……

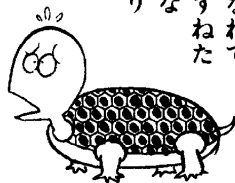
三大秘法の  
南無妙法蓮華經じゃ  
ないか!!

あ~~~~っ  
そうか  
そうか  
そうだよねっ

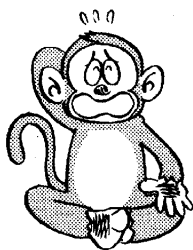
この  
南無妙法蓮華經の  
題目を  
はなれて  
法華經の  
心は  
ない!

わかった  
題目を  
はなれて  
法華經の  
心を  
たずねようと  
するのは……

それは  
猿をはなれて  
肝をたずねた  
おろかな  
亀であり



山林をすてて  
木の実を  
大海にもとめた  
猿とおなじで



じつに  
はかない(おろかな)  
ことである……

と大聖人様は  
のべられて  
いるのだね

よく  
わかつちやった

ま  
亀も猿も  
もつと  
勉強をして

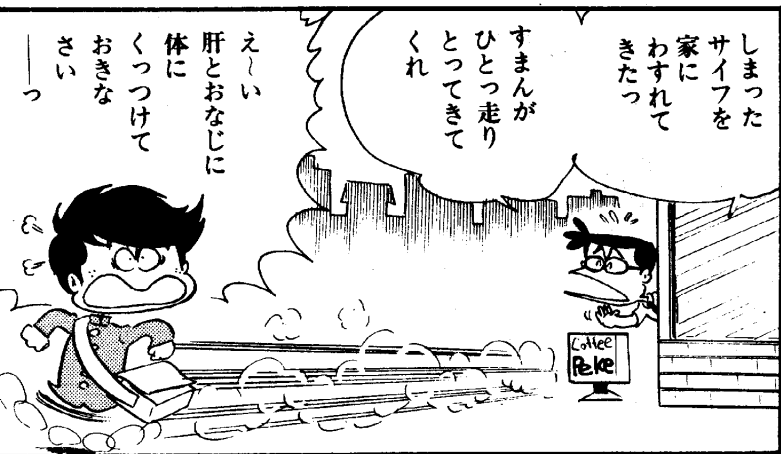
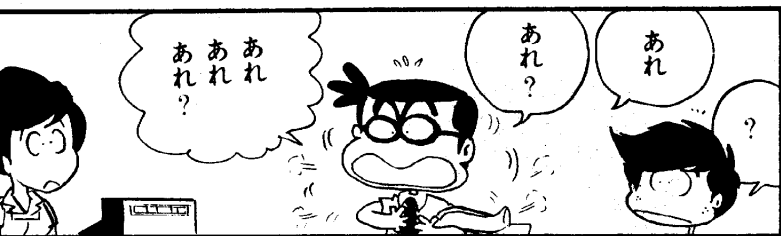
肝や木の実が  
どこにあるか  
よく知っていれば  
おたがいに  
だまされなくて  
すんだろうな



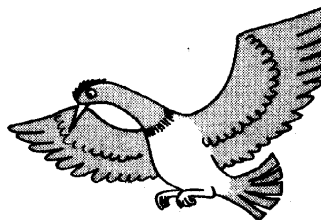
おまえも  
中学時代に  
必要な知識は身に  
つけとかなければ  
いざという時  
役に立たんぞ

わ~~~~つ  
おろかな  
猿や亀と  
おなじに  
なつちやうな

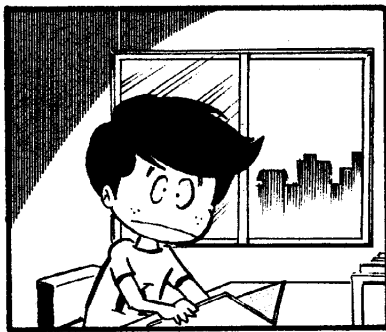
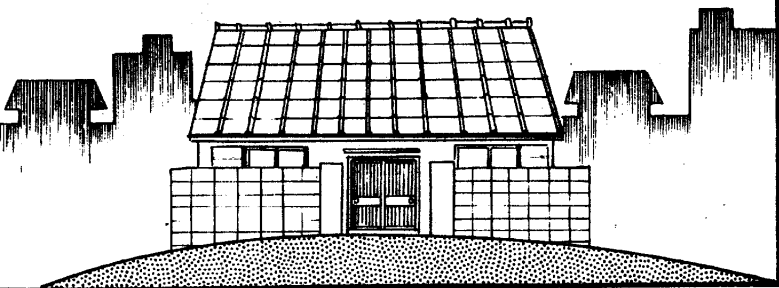


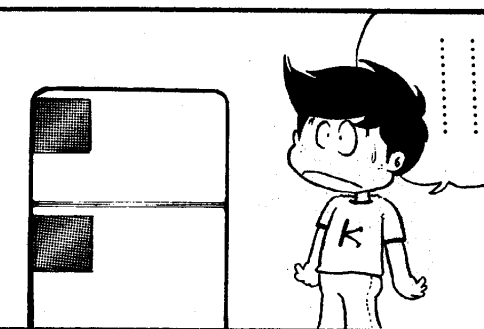
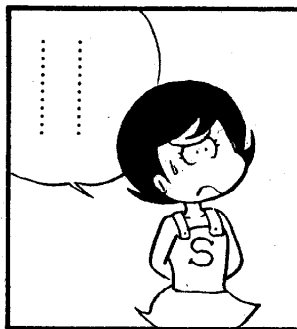
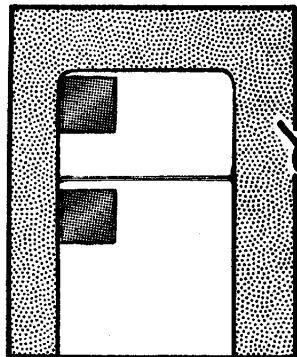


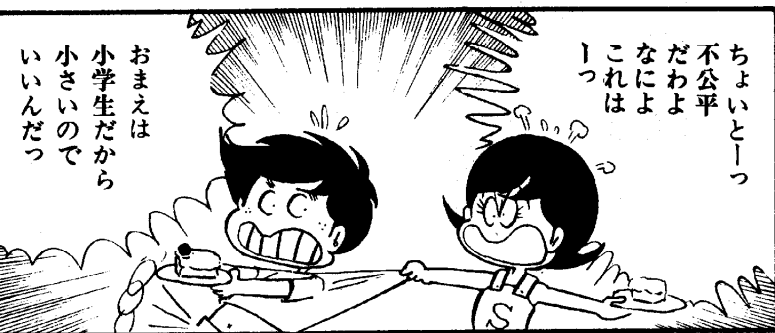
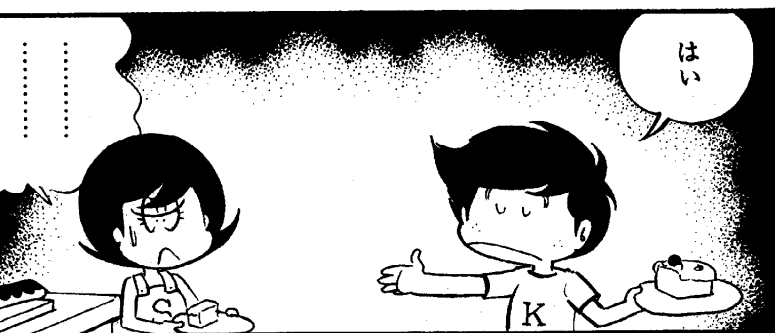
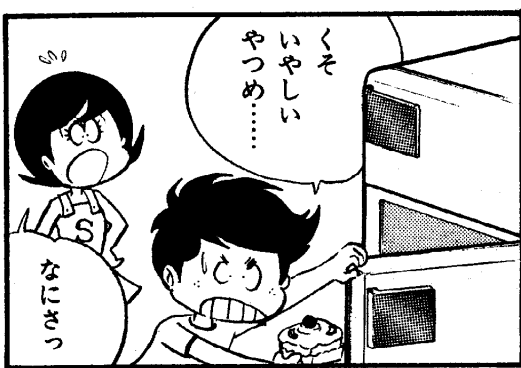
きよ ふ り いけ がみ きょう だい  
漁夫の利と池上兄弟

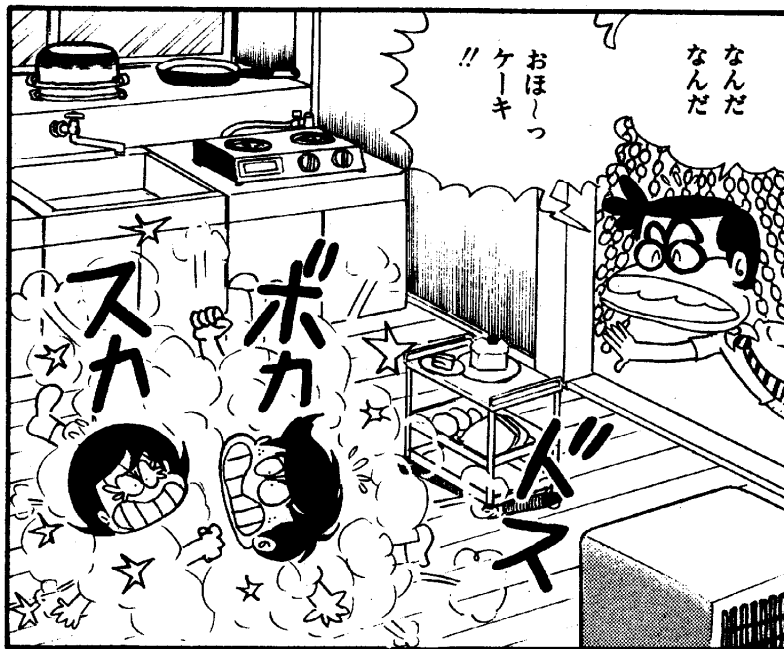


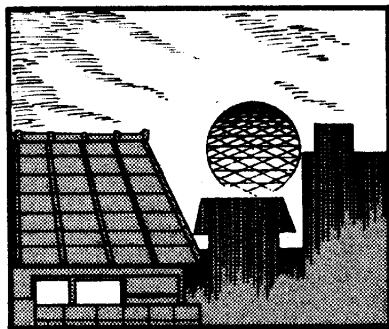
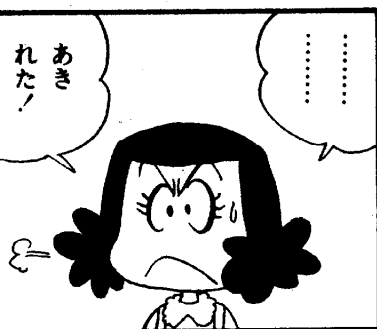












だけど  
まるで  
いっぽうの  
争いを  
地でいって  
るわね

二人の  
ケンカは

いっぽうって  
なに？

お兄ちゃんが  
一方的に  
悪いって  
ことよ



ちがいますっ

いっぽう  
鷸蚌

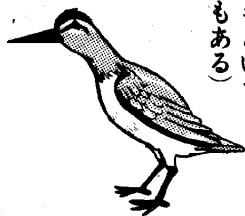
「いっぽう」  
とも読む

いっぽうの  
争いと  
いう  
おはなしっ

わっ  
むずかしい  
漢字っ



鷸とは  
かわせみ  
(シギという  
説もある)



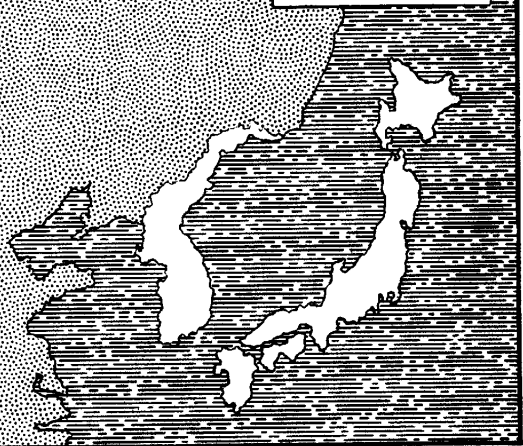
蚌は  
ハマグリ

(ドブ貝、  
カラス貝を  
さすともい  
われる)

のことで……



およそ  
二千年の  
昔



中国大陸が  
多くの国に分かれ  
たがいに争っていた  
戦国の時代

そんな  
ころ……

なかでも  
秦<sup>しん</sup>国は  
日に日に  
その巨大な  
勢力を  
のばしつづ  
かった



趙しやうという国と  
その近くにある  
燕えんという  
国は  
たがいに  
仲がわるく

つねに  
にらみ合いを  
つづけて  
いたが……

ついに  
趙の恵文王けいぶんは

もはや  
がまんが  
ならぬ！

燕国に  
ひとあわ  
ふかせて  
くれるわ!!

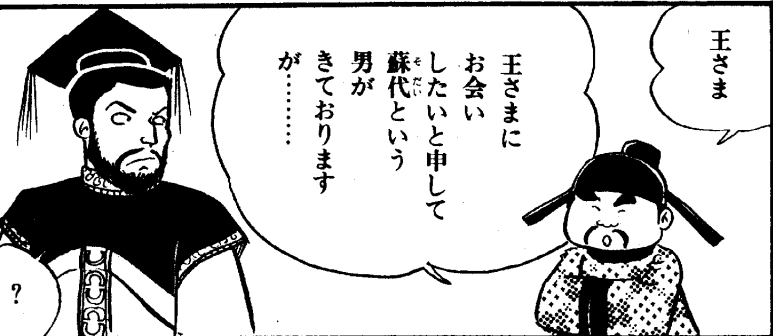
燕に向けて  
兵をあげる  
決意をした！

その時

王さま  
王さま  
しっ



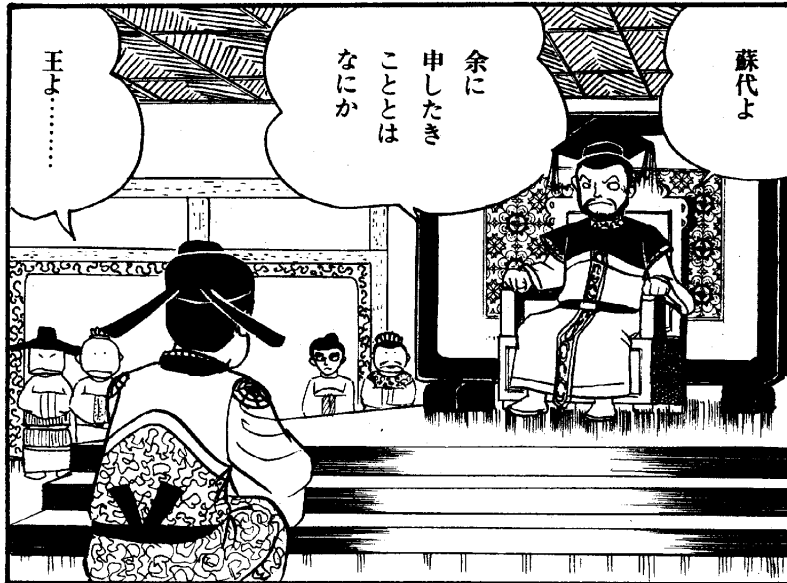




蘇代よ

余に  
申したき  
ことは  
なにか

王よ……



私がこちらへ  
まいります  
途中で

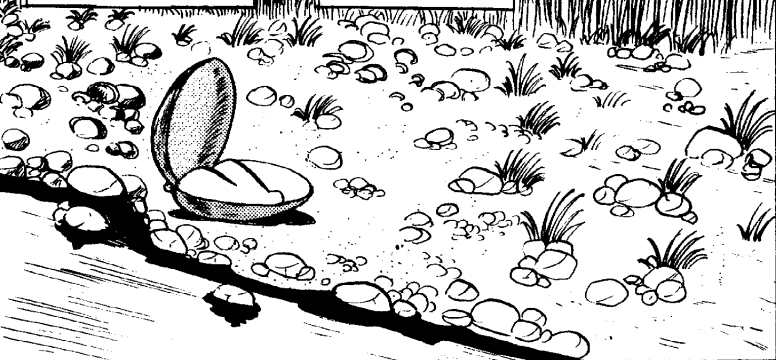
易水<sup>えいすい</sup>という  
川を  
渡ろうと  
しておりました  
ところ――



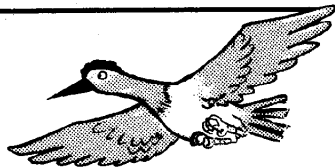


そこに一個の  
蚌ばうが  
おりました

天気がよいので  
蚌は陸にあがり  
殻からをあけて  
身をさらして  
いました



と  
そこへ



一羽の  
鶴いづが  
飛んできて



わー  
いただき  
まーす

蚌<sup>はま</sup>の肉を  
つついて  
食べようと  
した時――

はっ

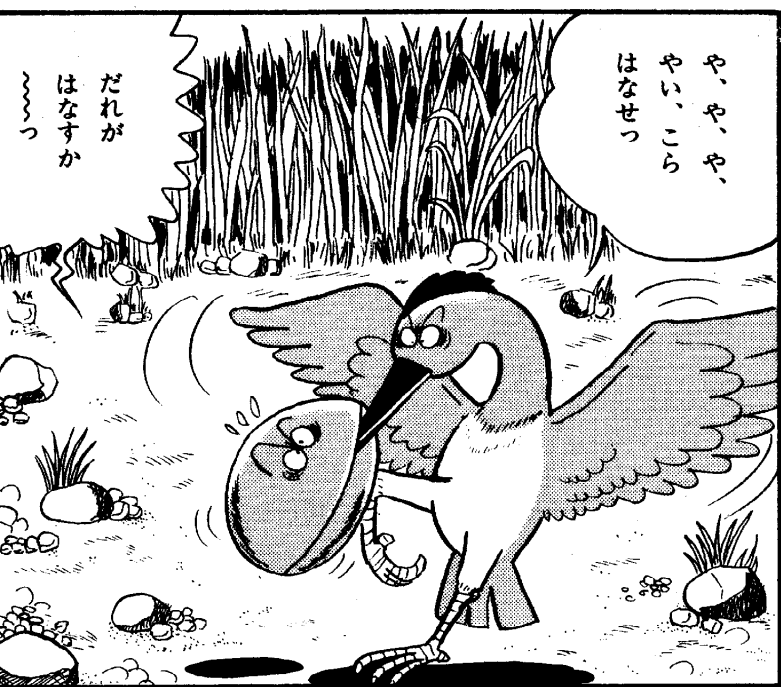
蚌は  
すかさず

貝の口を  
として  
鵲<sup>うす</sup>のくちばしを  
はさんで  
しまったのです

バカ  
ハ  
ー

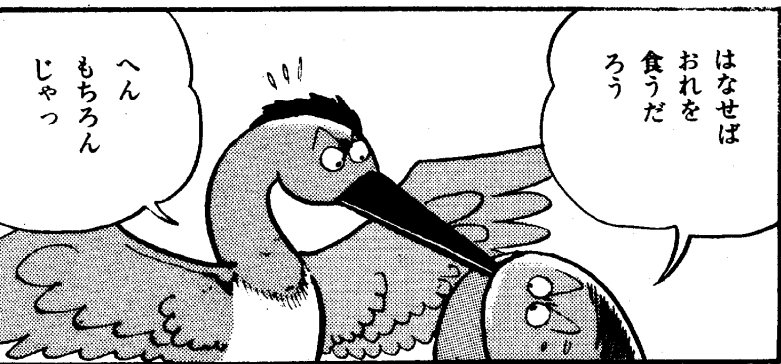
や、や、や、  
やい、こら  
はなせつ

だれが  
はなすか  
〜っ



はなせば  
おれを  
食うだ  
ろう

へん  
もちろん  
じゃっ



それなら  
ますます  
この口を  
あけることは  
できん

へん  
そういつてるが  
いいや

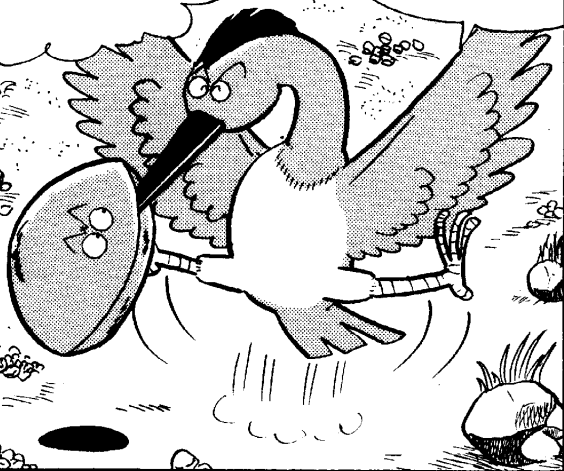
みろよ  
空を

ん？

このぶんじゃ  
きょうもあしたも  
雨は  
ふらないぜ

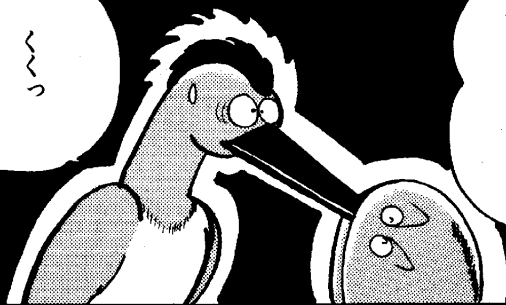
おまえは  
からからに  
ひからびて  
死んで  
しまうんだ  
やーい

そういう  
お前は  
どうなんだよっ



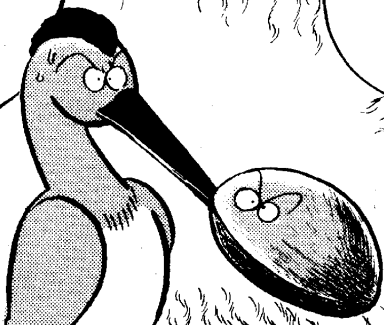
おれが  
この口を  
あけなきゃ  
空を  
飛ぶことは  
できない

くくっ



エサを  
みつけたって  
くえないんだ

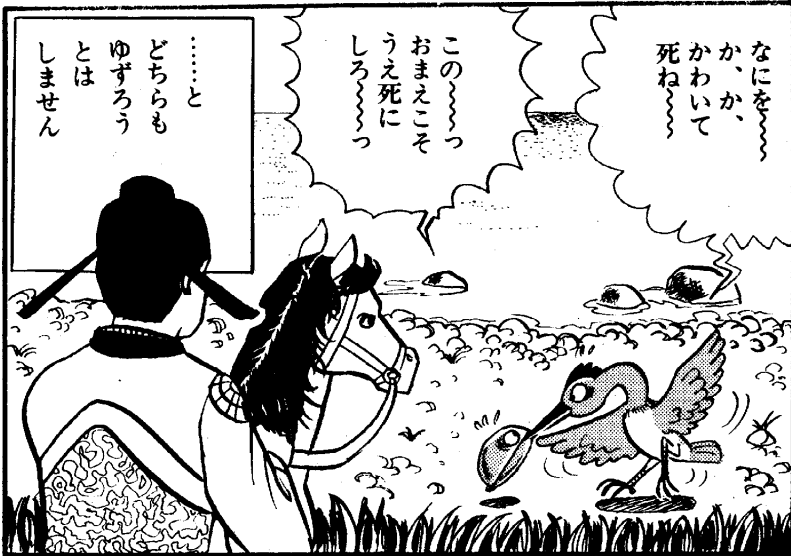
おれが  
きょうもあしたも  
こうしてりゃ  
おまえは  
うえ死に  
するんだぞ



なにを  
か、か、  
かわいて  
死ね

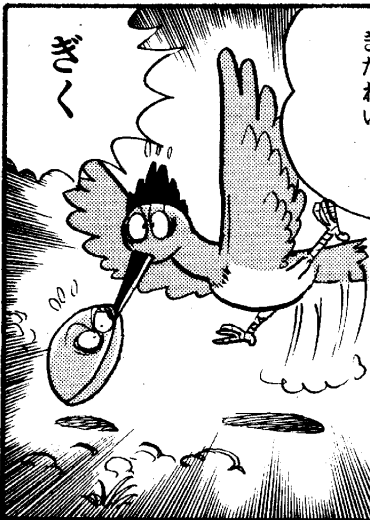
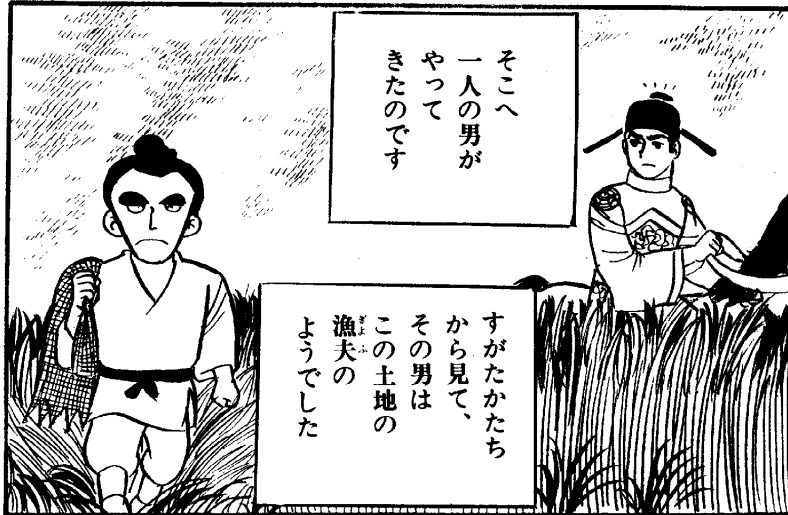
この~~~~つ  
おまえこそ  
うえ死に  
しろ~~~~つ

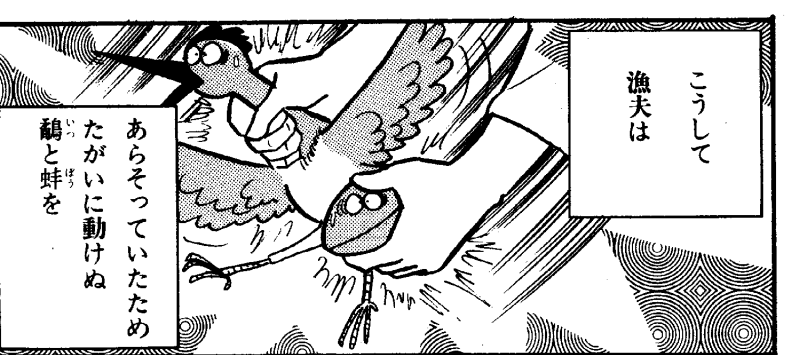
……と  
どちらも  
ゆずろう  
とは  
しません











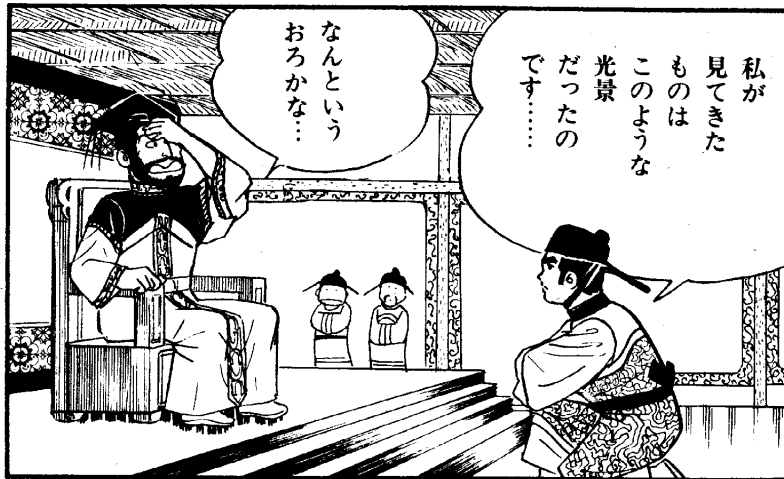
こうして  
漁夫は

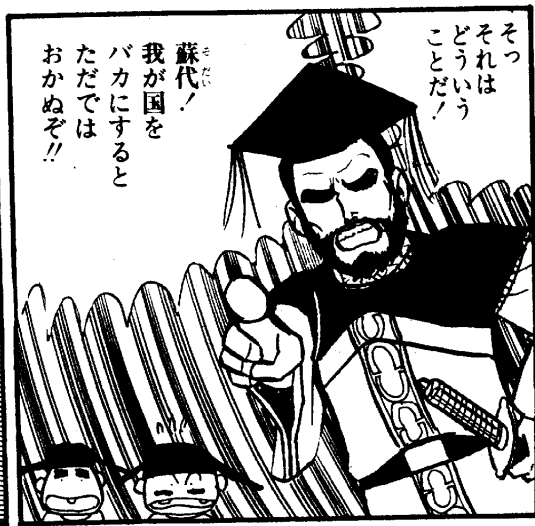
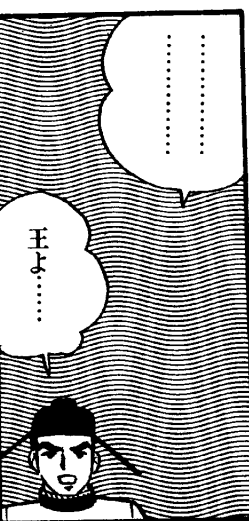
あらそっていたため  
たがいに動けぬ  
鵠いづと蚌はうを



やすやすと  
とらえ  
喜んで  
行つてしま  
いました

王よ……





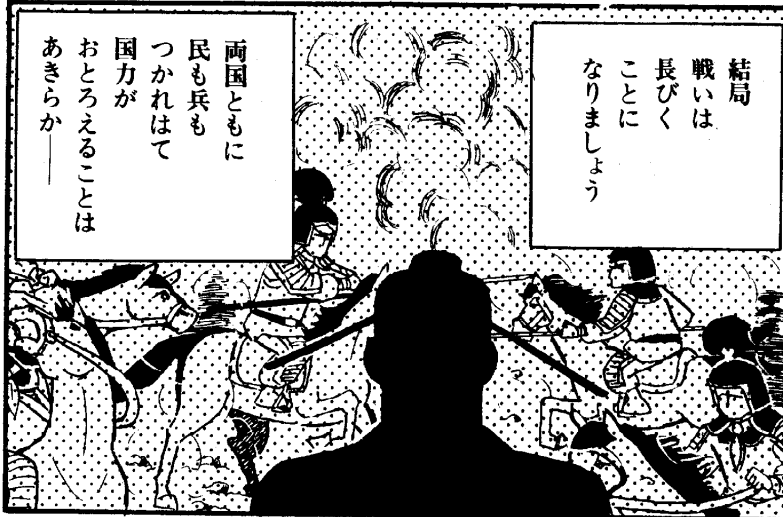
いま  
国王は  
隣国の  
燕を  
攻めようと  
して  
おられる――

しかし  
燕とても  
その兵は  
趙におとらぬ  
力を持つており  
やすやす  
滅ぼされは  
いたしませんまい――



結局  
戦いは  
長びく  
ことに  
なりましよう

兩國ともに  
民も兵も  
つかれはて  
国力が  
おとろえることは  
あきらか――



その機に  
乗じ  
利を得ん  
と

一人の  
「漁夫」が  
両者の  
あらそいを  
じつと見ているに  
違いありません  
.....



その漁夫  
とは.....

かの強大  
なる国  
秦の  
ことだな  
.....

さすが  
王は  
ご聡明で  
あられる！  
そうめい



王よ、私が  
心配しており  
ますのは  
まさに  
このこと、

みすみす  
秦に  
“漁夫の利”を  
得させる  
この戦い――

今一度  
思いなおして  
いただき  
たく……

あい  
わかった!!

余は  
もう  
少いで

おろかな  
鵠と蚌の  
二の舞をする  
ところであつた……

戦は  
やめじゃ!!

ただちに  
燕に  
使者を送り  
友好のちぎりを  
結ぶことに  
しようぞ!!

それでこそ  
両国は  
いつまでも  
栄えま  
しょう!!

王よ!





日蓮大聖人は  
ひつちまかんのこへんじ  
兵衛志殿御返事

(兄弟同心御書)と

いうお手紙の

なかで

池上兄弟に

(とくに弟の

いけがみじななが  
池上宗長に) 対して

この鵲蚌の争いのように

兄弟ゲンカをしては

いけませんと

教えられて

いるのよ

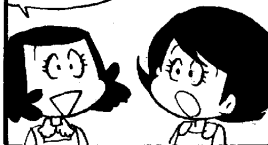


そうだったのか……



池上  
兄弟って  
どんな人  
だったの？

池上  
兄弟  
はね



数多くの

日蓮大聖人

門下のなかでも

四条金吾

富木常忍

南条時光などと

並ぶ

すぐれた

信徒です





池上宗仲、宗長の  
兄弟が入信したのは  
日蓮大聖人が  
立宗宣言された  
建長五年から  
三年の後

建長八年

ごろと

伝えられて

います――

池上兄弟は

それから

二十年

日蓮大聖人および  
その門下に対する  
はげしい迫害のなかを  
信心をつらぬき続けて  
いたけれど……

大聖人を迫害する  
人たちの策略に  
のせられて――

兄弟の信心に  
猛反対をしていた

父親の

池上康光は



兄弟のうちでも  
とくに信心の  
強盛こうじょうだった  
兄の宗仲を  
勘当かんどうして  
しまったの！

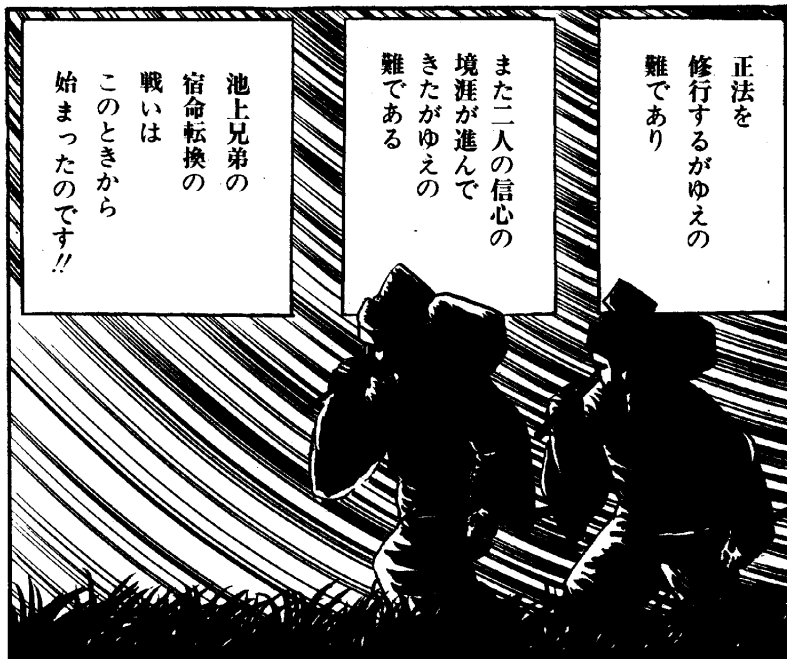
へえ～っ



正法を  
修行するがゆえの  
難であり

また二人の信心の  
境涯が進んで  
きたがゆえの  
難である

池上兄弟の  
宿命転換の  
戦いは  
このときから  
始まったのです！！



日蓮大聖人は

「兄弟抄」はじめ

かずかずのお手紙を

二人に与え

激励されました

兄にくらべ

信心の弱い

弟の宗長には

時には

きびしい指導も

あったようです



兄弟は

大聖人の

偉大な慈悲に

感激して

団結して

さまざま

難と

戦い

ついに

三年後の

弘安元年

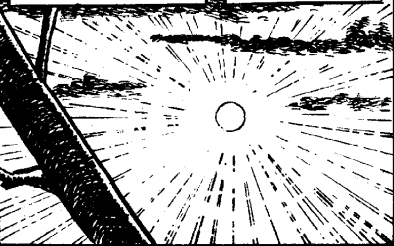
兄弟の

強い団結と

真心に感じた

父の康光は

宗仲の勘当を許し



そればかりか  
二十数年

反対しつづけていた  
大聖人の正法に  
帰依したのです

兄弟仲よく

手を取りあつて

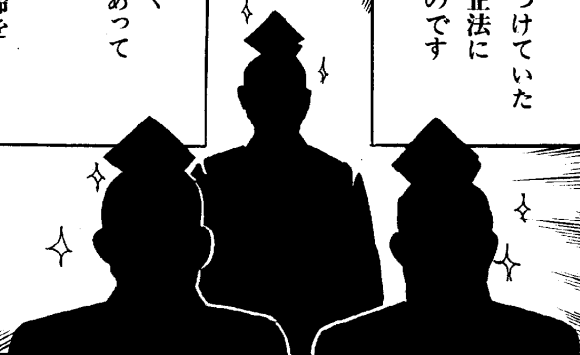
戦い

ついに

一家の革命を

なしたげた

池上兄弟!!



その姿は

現在も

私たちの

信心のかがみとして

輝いて

いるのです

わー

すばらしいなー

そのときの

大聖人の

かずかずのお手紙の

ひとつに

「兄弟同心御書」が

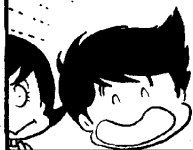
あるわけ

ケンジ

よんで

ごらん

はい



二人一同の儀は車の二つのわの如し鳥の二つの  
羽のごとし、たと設い妻子等の中のたがわせ給うと  
も二人の御中・不和なるべからず、恐れ候へど  
も日蓮をたいとしとをもひあわせ給へ、もし中  
不和にならせ給うならば二人の冥加みちがいかんがあ  
るべかるらめと思しめせ、あなかしこあなかし  
こ、各各みわきかたきもたせ給いたる人人なり、  
内より論出来ればいできた鵲蚌いつぽうの相扼あいじやくも漁夫のをそれ有  
るべし、南無妙法蓮華經と御唱えつつしむべし  
・つつしむべし、恐恐。

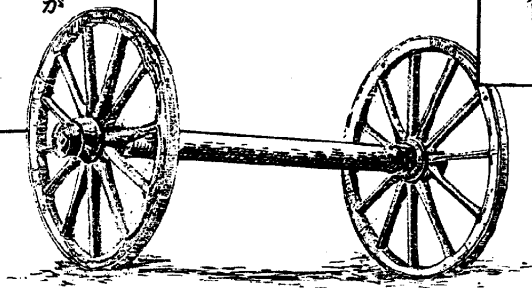
(御書一一〇八ページ)



二人一同の儀は  
車の二つのわの如し

あなたがた、  
(池上兄弟)二人が  
團結した姿は

ちょうど車の二つの  
輪のようなものです

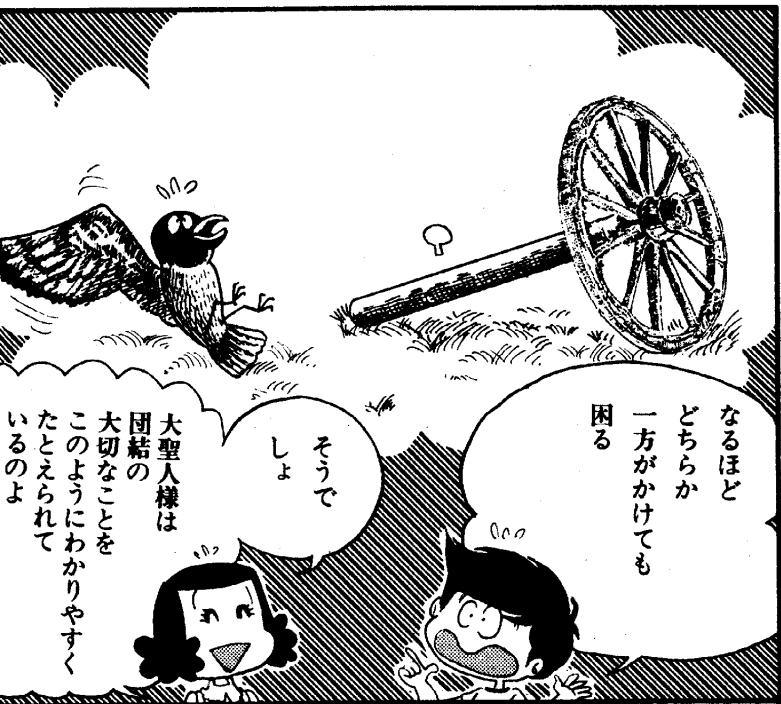


鳥の二つの羽の  
ごとし



また、空とふ鳥の  
二つの羽の  
ようなものです





なるほど  
どちらか  
一方がかけても  
困る

そうで  
しょ

大聖人様は  
団結の  
大切なことを  
このようにわかりやすく  
たとえられて  
いるのよ

設<sup>も</sup>い妻子等の  
中のたがわせ  
給うとも

たとえ  
あなた方の  
家族どうしの  
なかが  
わるくなったと  
しても……



二人の御中・不和  
なるべからず

あなた方兄弟は  
けっして仲が悪く  
なっては  
いけません



恐れ候へども  
日蓮をたいとしと  
をもひあわせ給へ

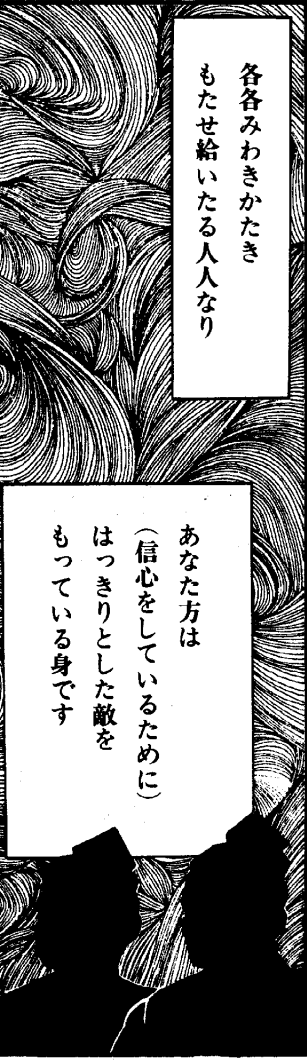
思いあがつたことを  
言うようですが  
この日蓮を尊敬して  
たがいになを  
あわせていきなさい





もし中不和<sup>なかふが</sup>にならせ給うならば  
二人の冥加<sup>みょうが</sup>いかんが  
あるべかるらめと思しめせ<sup>おも</sup>

もし、兄弟の仲がわるく  
なるならば、二人に対する  
御本尊の加護が  
どのようになるかと  
よく考えていきなさい



各各みわきかたき  
もたせ給いたる人人なり

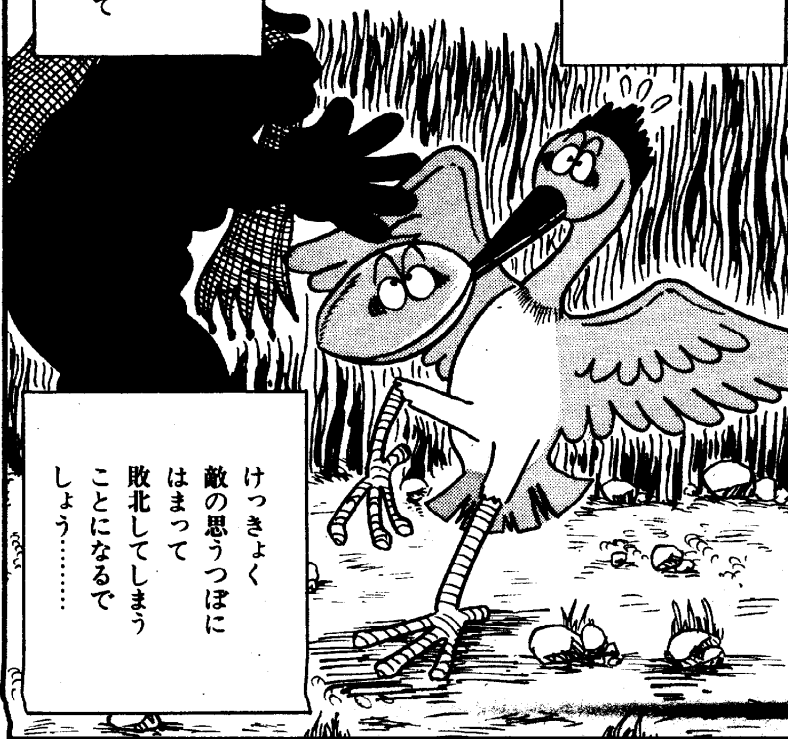
あなた方は  
（信心をしているために）  
はつきりとした敵を  
もっている身です

内より論出来れば  
鷸蚌の相扼も

漁夫のをそれ有るべし

二人で内輪の論争や  
ケンカをしたりしては、  
鷸と蚌が争いあつて  
ともに漁夫にとらえられて  
しまったように

けつきよく  
敵の思うつぽに  
はまって  
敗北してしまう  
ことになるで  
しょう……



南無妙法蓮華經と  
御唱えつつしむべし。  
つつしむべし

南無妙法蓮華經と  
題目を唱え、  
まちがいのないように  
つつしんでいきなさい  
つつしんでいきなさい



この御書で  
大聖人様は

団結と  
いうものの  
大切さを  
おしえられて  
いるの

団結……！



では、その  
団結の絆は  
どこから  
生まれるのか

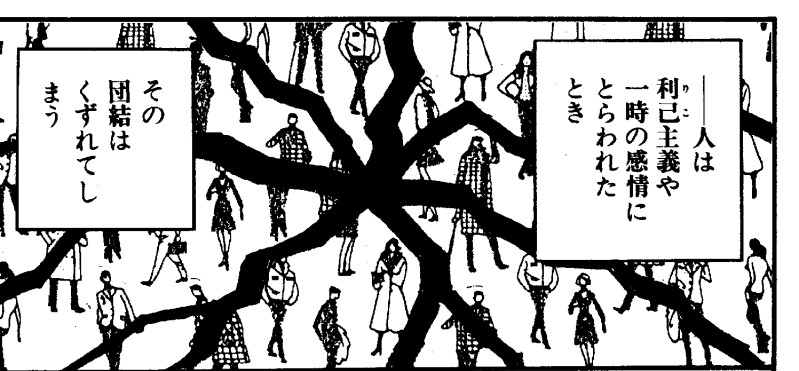
大聖人は、それを  
「日蓮をたいとしと  
をもひあわせ給へ」  
と――

あくまでも  
大聖人に対する  
信心に  
あることを  
教えられて  
いるのです

一般的に  
いえば……

団結す  
ることは  
むずかしい  
ものです





人は  
利己主義や  
一時の感情に  
とらわれた  
とき

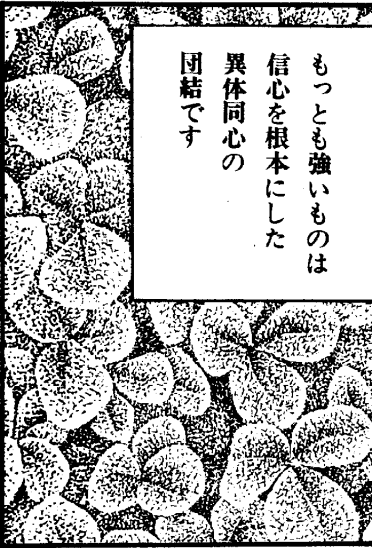
その  
団結は  
くずれてし  
まう



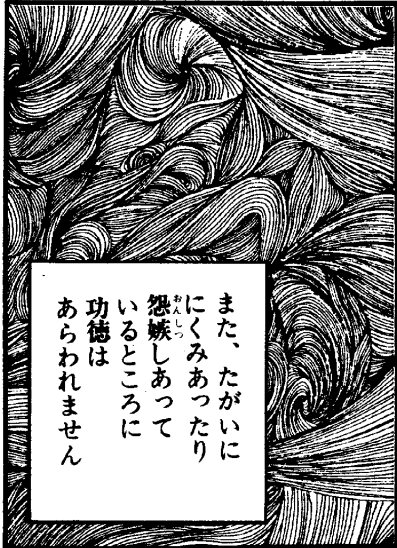
くずれぬ団結はともに  
同じ目的に向かつて  
自分をみがきながら  
進むことによつて  
はじめて  
生まれるのです

それが  
「同志愛」  
です

大目的のもとに  
結ばれた  
人間関係は  
ともに前進し  
成長していく  
姿であり  
行きづまりが  
ないのです！



もつとも強いものは  
信心を根本にした  
異体同心の  
団結です



また、たがいに  
にくみあつたり  
怨<sup>かんしゅ</sup>嫉しあつて  
いるところに  
功德は  
あらわれません

したがって  
池上兄弟に  
あたえられた  
この御書では

たとえ  
妻子同士が  
なかがい  
するような  
ことがあつても

兄弟二人は  
絶対に  
不和になつては  
いけないと  
いましめられて  
いるのです



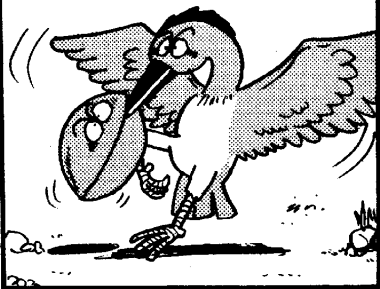
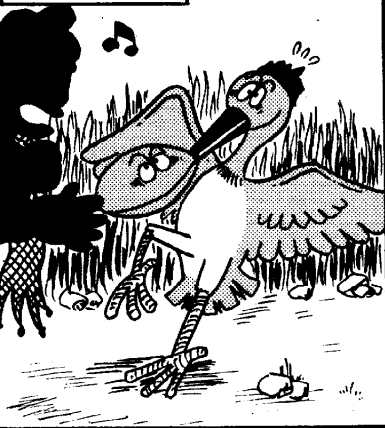


とくに  
池上兄弟の場合  
まわりの人びとが  
すきあらば二人を  
退転させようと  
ねらっていたので

大聖人はいっぽづ鵲蚌の争いの  
たとえ話をひいて  
兄弟を  
はげましたのです

信心が弱くなつて  
団結のきずなが  
切れたときは

必ず魔につけこまれ  
身のはめつを  
まねくことに  
なるのです……と



信心していく上で  
このことは大切な  
ことなのよ

二人も  
ケンカなんか  
してちゃ  
だめよ!

よく  
わかり  
ましたっ



これから  
ぜったい  
ケンカ  
したり  
しないで

魔に  
つけこま  
れないよ  
うに  
しまし  
よう  
ねっ

はっはっ  
そうか  
そうか

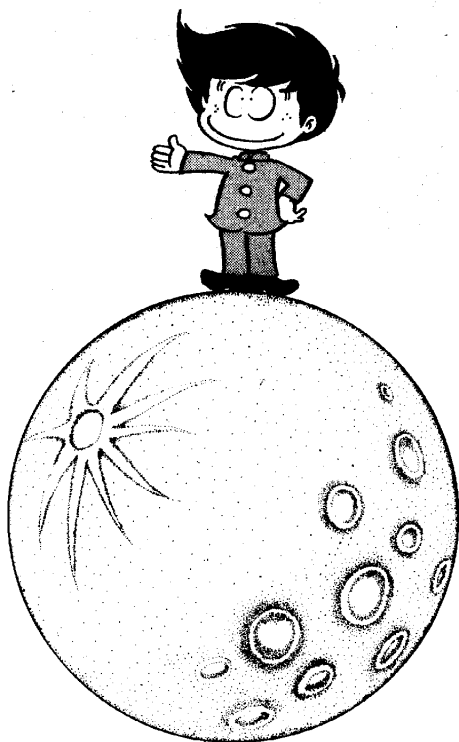
二人とも  
えらい  
えらい!!

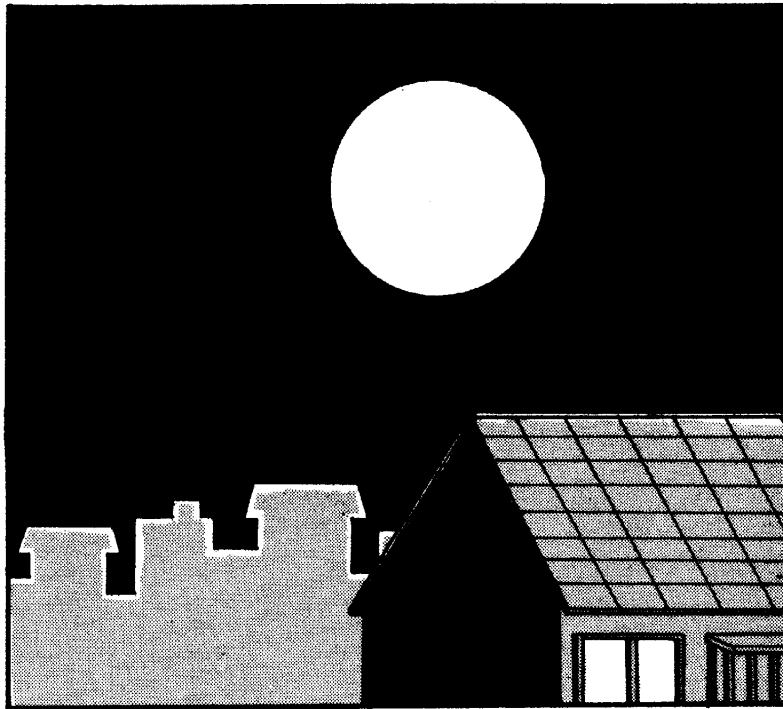


もとはといえば  
ケン太郎兄ちゃんが  
ケーキをよこどり  
したのが  
いけないんじゃないか——っ

兄弟ゲンカ  
しないって  
いったばかり  
なのに……

# 井戸の月と猿たち





♪ 静かな  
静かな  
大空に♪

わー  
きれいな  
お月さま

今夜は  
十五夜  
なのだ！



そういえば  
御書には

いろいろ  
月を引かれての  
御金言が  
多いが……

おまえたち  
いくつか  
知って  
いるかな？

はい  
いえ  
まーす

鎌倉より京へは

十二日の道なり、

それを十一日余り

歩あゆみをはとこびて今日

に成りて歩をさしをき

ては何として都の月

をばなが詠め候べき

新池御書

(御書)

一四四〇ページ

信心の持続の  
大切さを教えられている  
御金言だね

おーっ  
すごい

僕も  
知ってるぞ！

仏法は

月の国より始めて

日の国にとどまるべし

月は西より出で

東に向ひ日は

東より西へ行く事

天然のことはり……

——四条金吾殿御返事

(同一一六五ページ)

どういう  
意味なの？

どういう  
ことを  
いつているの  
？

えーつと

えー……

つまり

「月の国」とは

がらし<sup>ガらし</sup>月氏国(インド)

をあらわし

釈尊の

仏法を

「日」の光を

浴びて輝く

月にたとえたのだ

「日の国」は  
日本のこと

日蓮大聖人の

仏法を

「日」つまり太陽に

たとえられて

いるのだ

あーっ

すると  
釈尊の  
仏法は  
月氏国から  
日本へ伝わった

月が沈んで

(末法の時代となり)

釈尊の教えが  
力を失った

ときに

日本に

日蓮大聖人が

出現されて

大聖人の仏法が  
太陽が東から西へ  
向かうように  
今度は月氏国さらには  
全世界へむけて  
流布されていく  
これは自然の  
道理であるとい  
われている

すごい  
意味が  
あるのね……

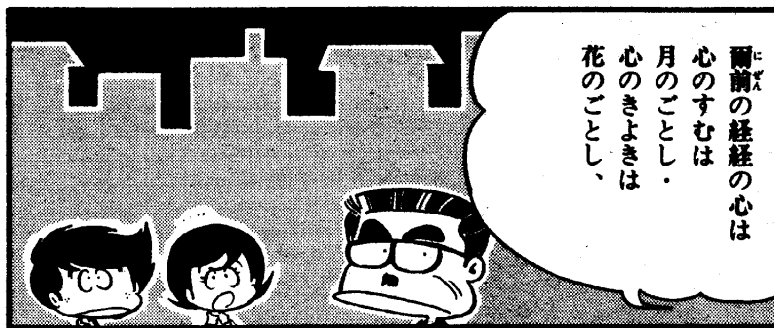
他に  
なにか  
知って  
いるか？

月を例に  
引かれている  
御書は

えーつと  
えーつと



爾前<sup>にぜん</sup>の経経の心は  
心のすむは  
月のごとし・  
心のきよきは  
花のごとし、



法華経は  
しからず・

月こそ心よ・  
花こそ心よと  
申す

法門なり

——白米一俵御書

(同一五九七

ページ)

わー  
ケン太郎  
兄ちゃんか





これは  
爾前經

(法華經以前の

低い教え)の

法門と

法華經の

法門の相違を

花や月に

たとえて

のべられた

ものだね

へえ~~~~っ

あたしも  
こんなの  
知ってるわ

実には無き

水月なれば

月とられずして

水に落ち入って

瓊は死にけり

寿量品得意抄

(同二二二

ページ)

あ  
お母さん

どういう  
ことなの  
?

うむ

「摩訶僧祇律」

という

經典にある

話でな

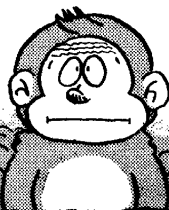
むかし

.....

インド  
迦尸国  
という  
所の

山奥に  
五百匹  
の

サルの一  
族が  
すんで  
いた  
という……

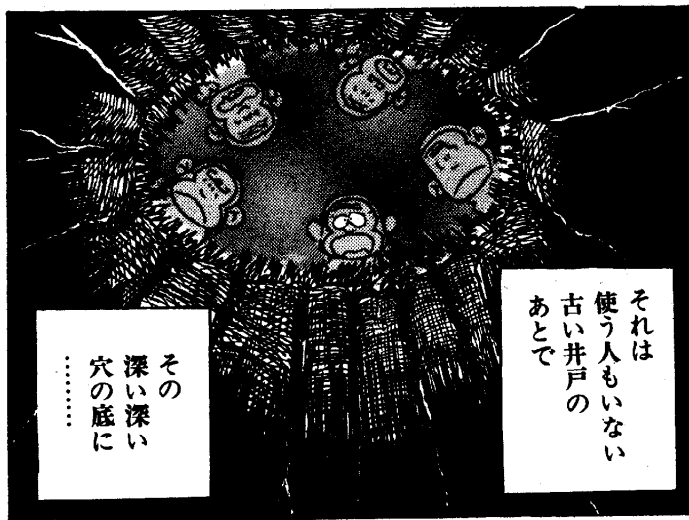


五百匹の  
サルたちは  
毎日林の中を  
とび回って  
あそんでいたが……



ある夜  
巨大な木の下に  
きたとき

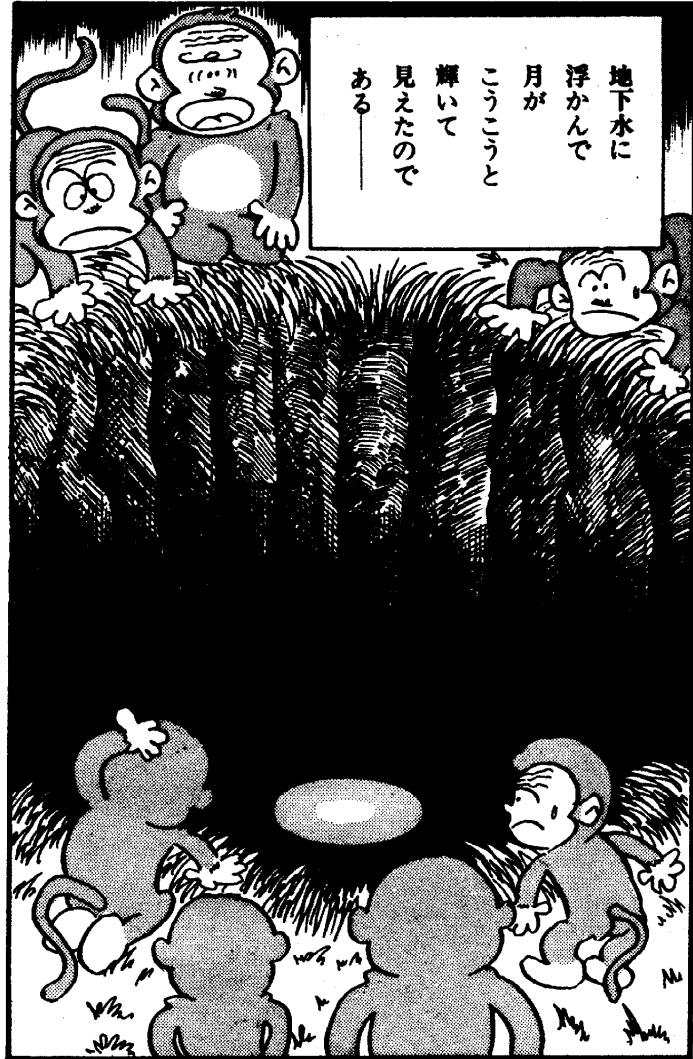
そこに  
大きな穴が  
あるのを  
発見した



それは  
使う人もいない  
古い井戸の  
あとで

その  
深い深い  
穴の底に  
.....

地下水に  
浮かんで  
月が  
こうこうと  
輝いて  
見えたので  
ある――



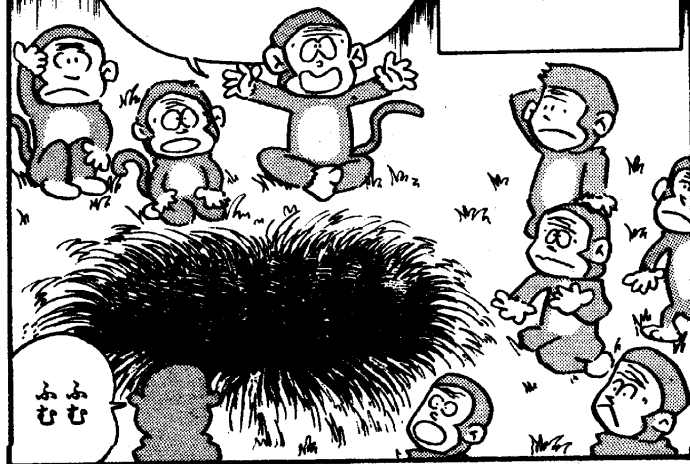
むろん  
空には  
本物の月が  
地上を  
てらして  
いたのだが

地の底に  
目をうばわれた  
猿たちは  
そのことに  
気づかず



やがて  
一匹の猿が  
口を  
ひらいた

きよう  
月は死んで  
井戸の中に  
おちて  
しまった  
ようだな  
.....



みんなで  
この月を  
とりだし  
我々の宝物に  
しようでは  
ないか

そうすれば  
もうこれからは  
やみ夜を  
おそれる  
必要は  
なくなるのだ

しかし  
……

どうすれば  
この月を  
とりだす  
ことが  
できるか  
な……

むずかしゅう  
ござル  
な……

五百匹の猿は  
ボス猿の所へ行くと  
その方法を  
たずねた

うむ  
それなら  
わしは  
よい方法を  
しって  
おるぞ

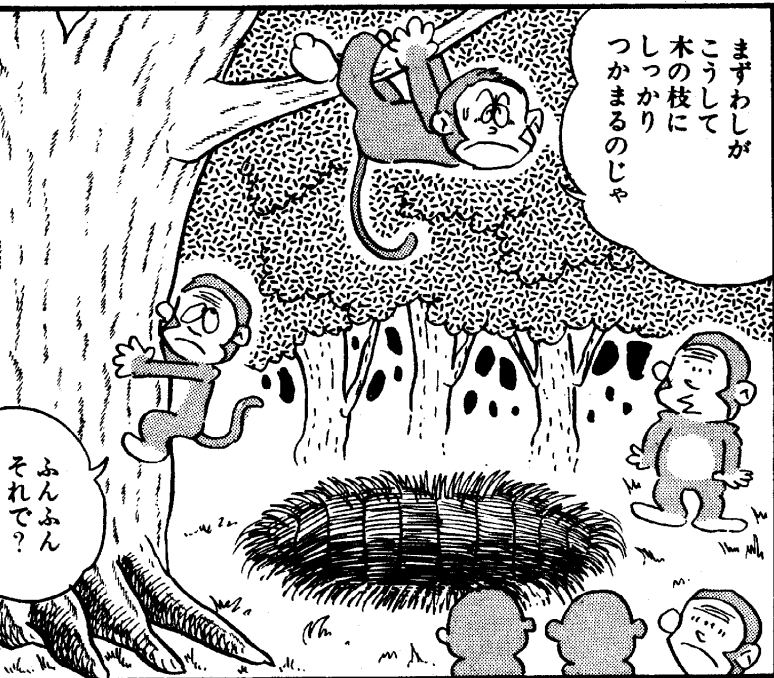
井戸の底に  
落ちている  
月を  
とりだす  
方法が  
あるのですか

ぜひ  
おしえて  
ください

さいわい  
この井戸の  
そばには  
巨大な  
木があるから



まずわしが  
こうして  
木の枝に  
しっかりと  
つかまるのじゃ



ふんふん  
それで?

つぎの者は  
わしの  
しっぽに  
つかまるが  
よい

こう……  
ですか？！

どんだん  
つぎつぎに  
ぶらさがって  
いけば

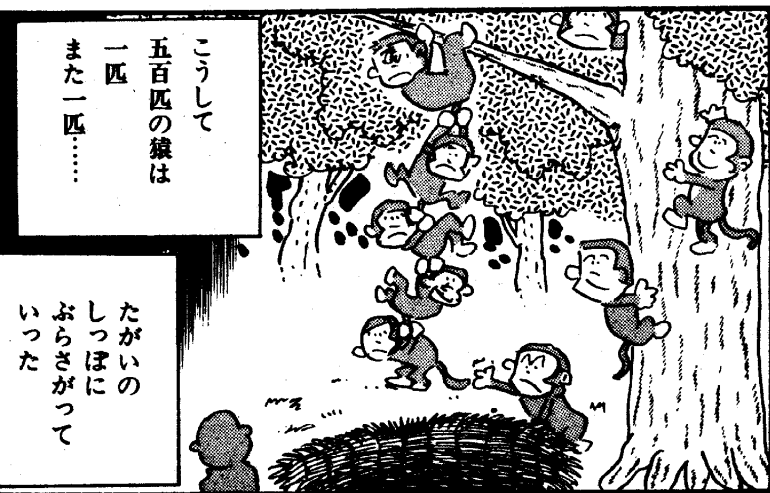
井戸の底の  
月を  
とることが  
できるぞよ

わー  
そうか  
そうか

よーし  
がんばる  
ぞー







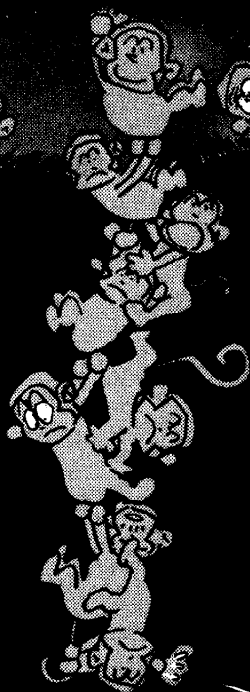
オーライ  
オーライ

どうだーっ  
ほちほち  
とどきそうかーっ

もつとこい  
もつとこい  
しっ

がんば  
れしっ

まだまだしっ  
思ったより  
こりや  
深いぞしっ



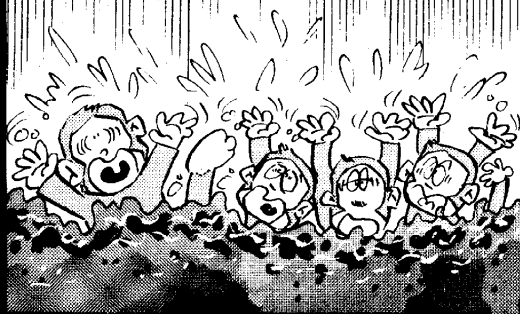


木の枝は  
猿たちの重みに  
とても耐えきれず  
ポツキリと折れて  
しまったのである……



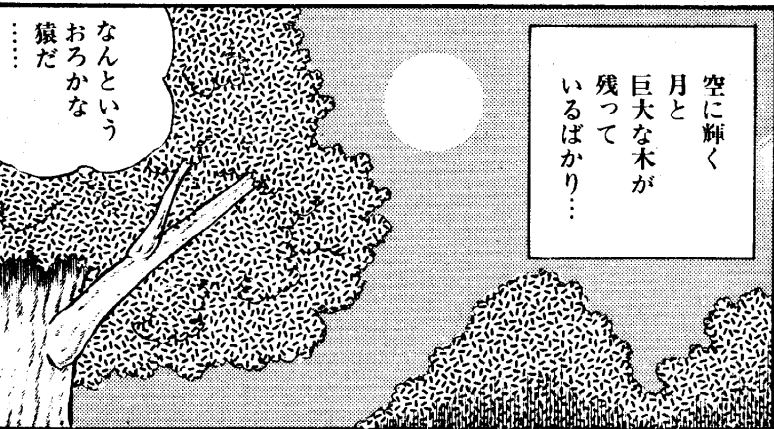
こうして  
猿たちは  
みな  
おぼれて  
しまい……

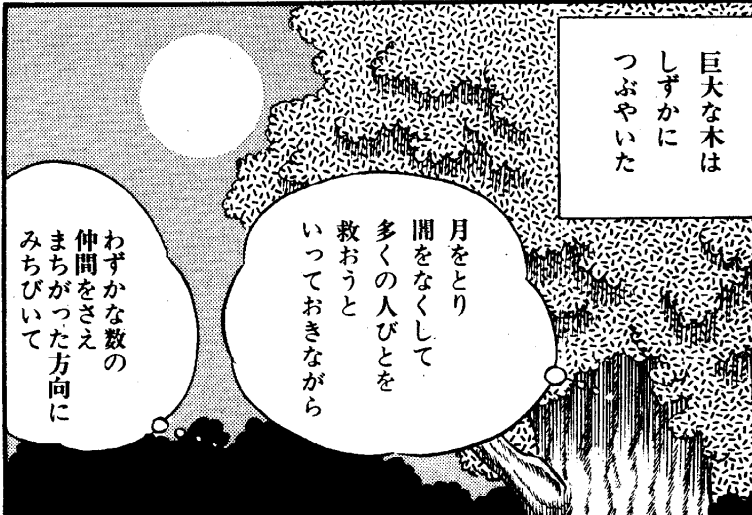
その  
あとには



空に輝く  
月と  
巨大な木が  
残って  
いるばかり……

なんという  
おろかな  
猿だ

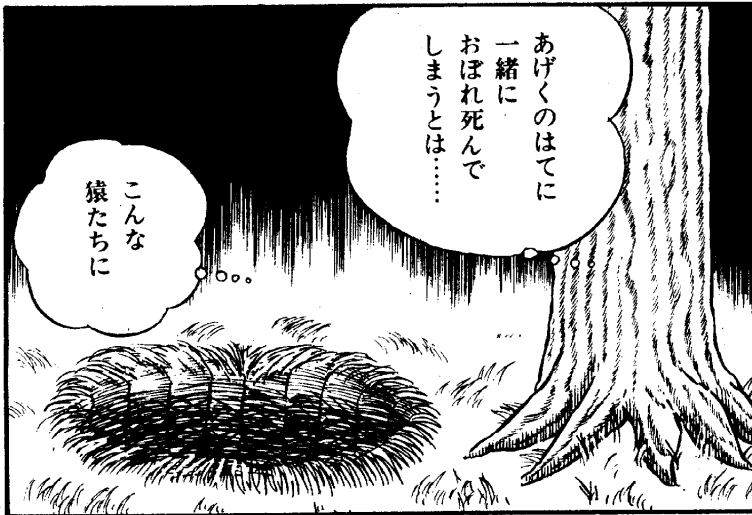




巨大な木は  
しずかに  
つぶやいた

月をとり  
闇をなくして  
多くの人びとを  
救おうと  
いつておきながら

わずかな数の  
仲間をさえ  
まちがった方向に  
みちびいて



あげくのはてに  
一緒に  
おぼれ死んで  
しまうとは……

こんな  
猿たちに

どうして  
世の人びとを  
救うことが  
できるだろう  
か……と

木が  
いつて  
おりました  
とき

わあ~~~~  
なかなか  
キビシイ  
言葉だなア



そうよ  
仲間どころか  
自分も救えない  
者に

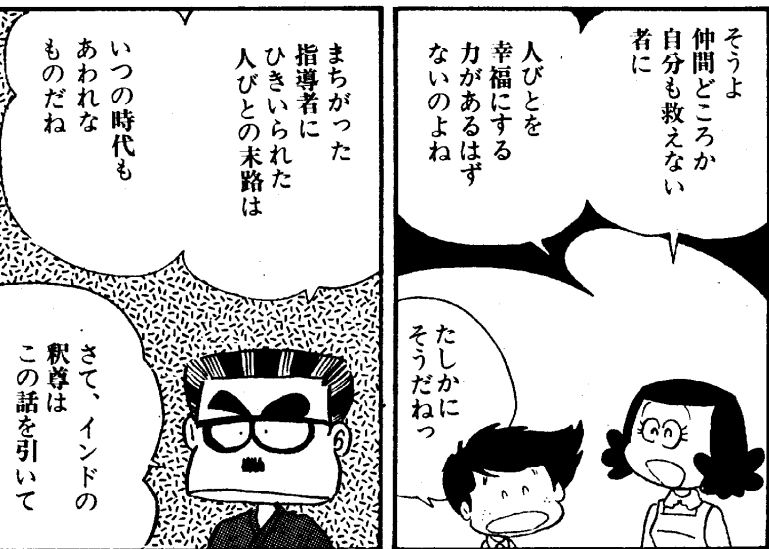
人びとを  
幸福にする  
力があるはず  
ないのよね

まちがった  
指導者に  
ひきいられた  
人びとの末路は

いつの時代も  
あわれな  
ものだね

たしかに  
そうだねっ

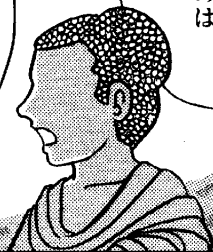
さて、インドの  
釈尊は  
この話を引いて



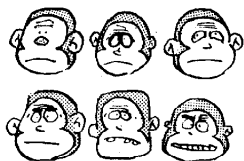
この話の  
猿の親玉と  
いうのは

今の  
提婆達多  
なのだ！

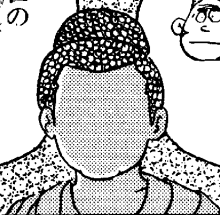
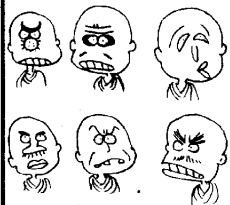
へえーっ



そして  
猿たちは



今の世の  
「六群比丘」の  
ことである…

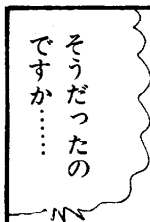


彼らは昔  
たがいに  
仲間になつて  
苦しんだと  
いうのに

今の世でも  
また

仏法にそむいて  
苦しんで  
いるのだよ  
……

そうだったの  
ですか……





と、まわりの  
弟子たちに  
話した  
そうじゃ

提婆達多と  
いうのは  
三逆罪を  
犯したんでしょ

そうじゃ  
はじめは  
人びとを救おうと  
仏道修行を  
していたのだが

我見が強く  
しだいに  
仏法にそむくようになり…



五百人の  
仏の弟子を  
引きこんで  
釈尊の  
和合僧団を  
破り

(破和合僧)  
はわごうそう



その他  
数多くの  
悪事を行った  
のち

それを  
たしなめた  
比丘尼を  
なぐり殺した  
(殺阿羅漢)

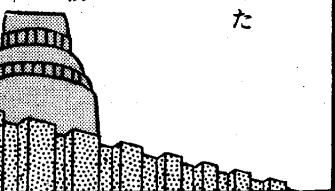
この三つを  
三逆罪と  
いう



仏を  
殺そうとして山の上から  
大石を落とし  
釈尊に傷をおわせ  
(出仏身血)  
すいぶつしんけつ



王舎城の  
なかで  
釈尊を毒殺  
しようとし  
たとき





難陀 迦留陀夷 闍那  
なんだ かるだい せんな



補那婆 阿說迦 跋難陀  
ほなば あせつか ばつなんだ  
素迦  
そか

また、六群比丘というのも  
当時のインドで  
つねに一群となつて  
破戒行為をしていた  
六人の惡僧のことで



この六人が  
いろんな  
悪事を  
おかしたことが

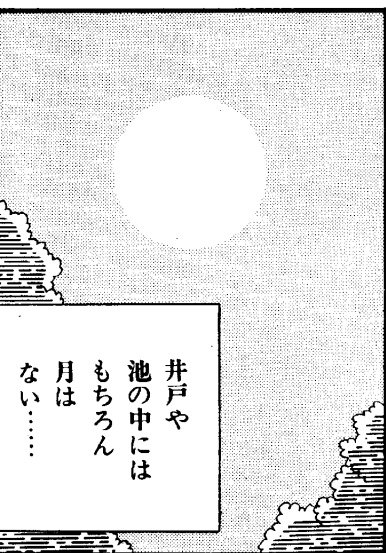
仏が戒律（仏法上）  
してはいけないこと  
を定める  
縁になったと  
いうくらいだ  
からね



足もとの  
大地が  
自然に割れ

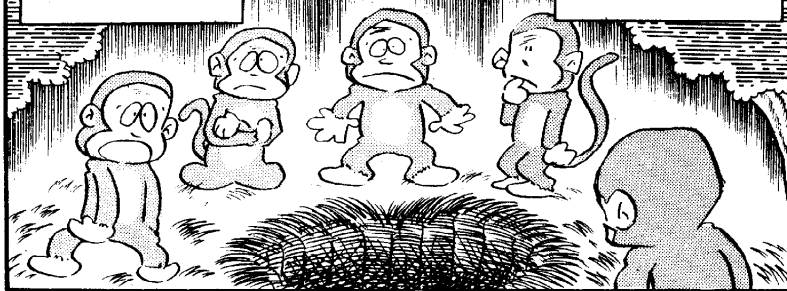


生きながら  
無間地獄に  
落ちたという……

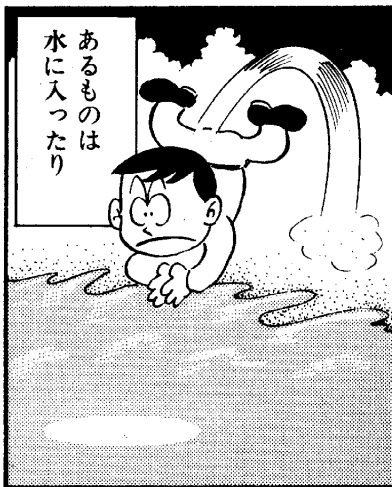


しかし  
井戸や池に  
月があると  
思いこんで  
しまうと

真実の月に  
目を向ける  
ことが  
できなくなって  
しまう……

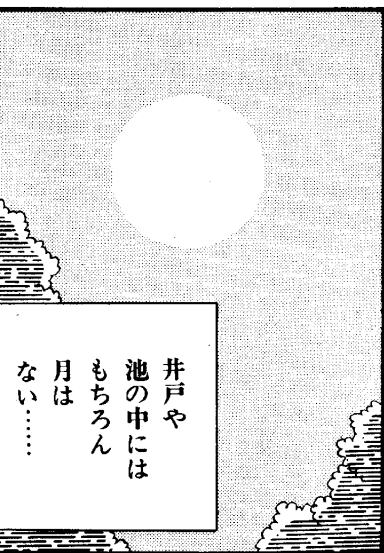


あるものは  
水に入ったり



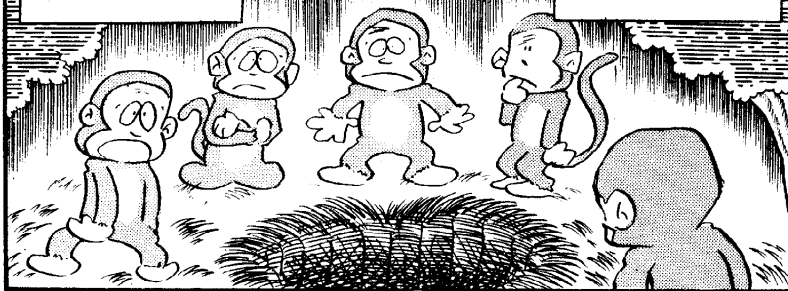
また  
あるものは  
縄をつけて  
とろうと  
するが



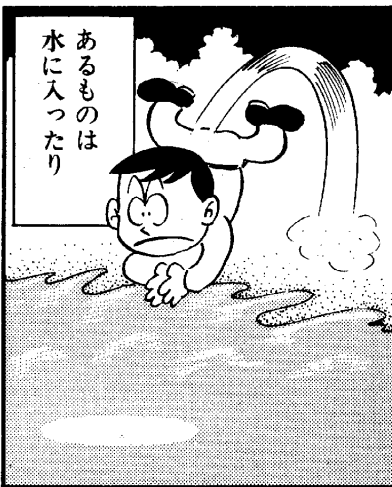


しかし  
井戸や池に  
月があると  
思いこんで  
しまうと

真実の月に  
目を向ける  
ことが  
できなくなつて  
しまう……



あるものは  
水に入ったり



また  
あるものは  
縄をつけて  
とろうと  
するが



しかし結局は  
月をとることが  
できない  
ばかりか

多くの人も  
自分も  
ともどもに  
苦しまねば  
ならないの  
です

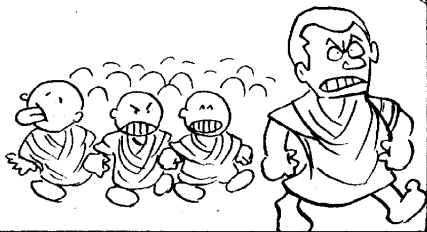
せっかくの  
努力も  
水のアワに  
なつて  
しまうの  
です



提婆達多  
たちも  
はじめから  
釈尊に  
そむいた  
わけではない

真実の法を  
求めて  
仏門に入ったの  
です

しかし  
慢心と怨嫉に  
心と目がくもった時  
空の月が  
見えなくなつて  
しまったと  
いえるでしょう



今の世にも  
真実の仏法を  
知らないで

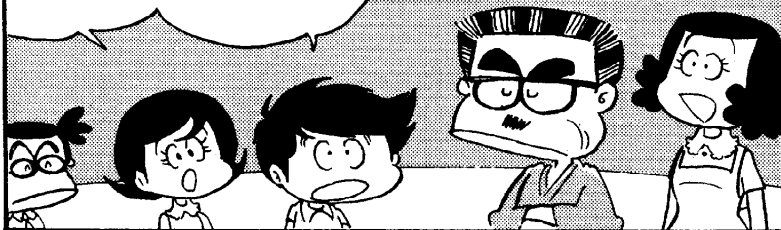
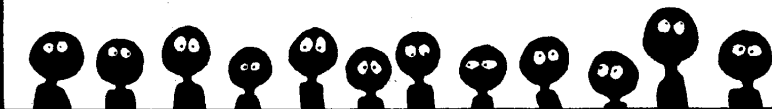
さまざま  
思想や  
他の宗教を  
正しいと  
思い込んでいる  
多くの  
人たちがいます

その人たちが  
この話に  
あてはまる  
と

大聖人様は  
教えられて  
いるのだ

真実の  
仏法を  
天にある月に  
たとえ

まちがった教えを  
水にうつった月に  
たとえられて  
いるのね





人はみな  
それぞれに  
真実の法、そして幸福を  
追い求め  
けんめいな  
努力も  
している

しかし  
低い思想や  
あやまった教えは  
他の人をも苦しめ  
自分も不幸になっ  
てしまふのだ



おろかで  
あり  
かわいそうな  
ことです!

また、せつかく  
正法に  
めぐりあつて  
いながら

ささいな  
誤解や怨嫉おんしつから  
法に背そむいていく  
人たちが  
多い

私たちは  
増上慢に  
なつて  
月を  
見失う  
おろかな  
猿に  
ならない  
よう……



日々  
信・行・学の

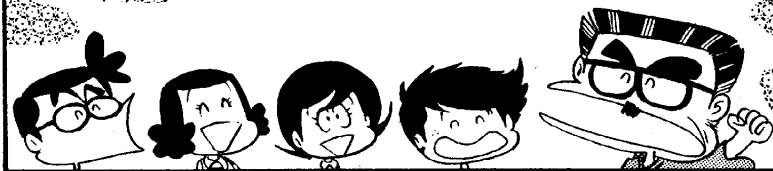
実践を

積み重ねて

いこう

!!

はい  
がんばり  
ます!!



うう~~~~つ  
おそくまで  
外にいたので  
寒くなつて  
きた

あら  
もう  
こんな  
時間

おなか  
すいた  
よう

その前に  
勤行よつ



わ  
きびしい



聖教コミックス⑬

# 未来ケンジくん

1

昭和55年10月5日発行  
昭和62年9月20日第19刷

---

|     |                                                              |
|-----|--------------------------------------------------------------|
| 著者  | みなもと 太郎                                                      |
| 発行者 | 松岡 資                                                         |
| 発行所 | 聖教新聞社<br>東京都新宿区信濃町18<br>TEL 東京 (353)6111(代)<br>振替 東京 5-79407 |
| 印刷所 | 大日本印刷株式会社                                                    |

---